

# 大磯町まちづくり基本計画ワークショップ

## 結果報告書



令和2年2月

大磯町

## 目 次

1	ワークショップの実施概要 .....	1
2	ワークショップのまとめ .....	3
1)	全体構想に向けたワークショップ .....	3
2)	地域別構想に向けたワークショップ .....	4
3)	ワークショップから得られた全体構想への示唆 .....	8
3	各回のワークショップの概要と結果のまとめ .....	9
1)	全体構想に向けたワークショップ（第1回） .....	9
2)	全体構想に向けたワークショップ（第2回） .....	17
3)	地域別構想に向けたワークショップ（第3回） .....	27
（1）	地域別構想に向けたワークショップ（大磯地域・国府南地域） .....	27
（2）	地域別構想に向けたワークショップ（小磯地域・国府北地域） .....	36
4)	地域別構想に向けたワークショップ（第4回） .....	43
（1）	地域別構想に向けたワークショップ（大磯地域・国府南地域） .....	43
（2）	地域別構想に向けたワークショップ（小磯地域・国府北地域） .....	53

# 1 ワークショップの実施概要

## (1) 開催の目的

大磯町では、「豊かな自然に歴史文化が薫りほっとする素敵なまち・大磯」を基本理念として、「まちづくり基本計画」を策定し、大磯らしいまちづくりを進めています。

現計画が 2020 年度に目標年次を迎えることから、今後の大磯町を考え、未来の大磯町に向けて、町民が取り組めること、行政が取り組めることを「ワークショップ」で一緒に考えるという目的でワークショップを開催しました。

本ワークショップの結果については、都市計画審議会、まちづくり審議会及び大磯町まちづくり基本計画策定委員会等、まちづくり基本計画の策定過程における基礎資料として活用します。

## (2) 開催概要

		日時・対象地域	開催場所	参加者数
第1回		令和元年 10 月 14 日(月・祝)09:30~12:00 全地域	大磯町保健センター 2F 研修室	18 名
第2回		令和元年 11 月 2 日(土)09:30~12:00 全地域	大磯町保健センター 2F 研修室	22 名
第3回	午前	令和元年 11 月 30 日(土)09:30~12:00 大磯地域 & 国府南地域	大磯町保健センター 1階研修室	19 名
	午後	令和元年 11 月 30 日(土)13:00~15:30 小磯地域 & 国府北地域	大磯町保健センター 1階研修室	16 名
第4回	午前	令和元年 12 月 21 日(土)09:30~12:00 大磯地域 & 国府南地域	大磯町保健センター 2F 研修室	17 名
	午後	令和元年 12 月 21 日(土)13:00~15:30 小磯地域 & 国府北地域	大磯町保健センター 2F 研修室	15 名



地域名	該当する大字
大磯地域	高麗、東町、大磯
小磯地域	東小磯、西小磯
国府南地域	国府本郷、国府新宿、月京、石神台
国府北地域	生沢、寺坂、虫窪、黒岩、西久保

### (3) 各回の内容

第1回、第2回は、全地域を対象に、全体構想に向けたワークショップを行いました。第3回、第4回は全体構想の方向性を確認し、各地域ごとのワークショップを行いました。

ワークショップスケジュール		グループ	テーマ
第1回 10月14日	全体構想1	地域混合	<b>大磯町の良さと課題</b> ◆めざす大磯らしさとは—大切にしたいこと ◆町の人口について ◆幹線道路 ◆周辺自治体との関係（都市施設のあり方）
(宿題) 10年後の大磯町のあるべき方向			
第2回 11月2日	全体構想2	地域混合	<b>まちづくりの方向と達成方策</b> ◆目指すべき将来像 ◆地域でできること、行政がすべきこと
(宿題) まちづくりの方向から見た地域のあり方			
第3回 11月30日	地域別構想1	地域別	<b>地域の抱える克服すべき課題</b> ◆最近の気になる変化、困りごと ◆道路（地区内道路） ◆公共交通について ◆都市施設について ◆山林・農地・海岸について
(宿題) 地域別まちづくりの達成方策			
第4回 12月21日	地域別構想2	地域別	<b>大磯町のまちづくりからみた地域整備の方向と方策</b>

## 2 ワークショップのまとめ

### 1) 全体構想に向けたワークショップ

第1回、第2回の全体構想に向けたワークショップでは、目指すべき将来像、まちづくりのコンセプト、実現方策について意見交換を行いました。必ずしも共通の意見に収束したわけではありませんが、大磯町の将来のあり方を規定する意見が提示されました。

テーマ		主要意見
目指す将来像	まちづくりの方向	住んでいる方にフォーカスしたまち 心地良いまち（このままでよい） 地域資源を活用したまちづくり 大磯らしさの定義（大磯コード） 文化政策、次世代を育成、IT技術の重視 人が来すぎないまちづくり 町内に働けるところがあるまち SDGsに準じた持続する町大磯
	地域の活性化	人口定住 健康に注目したまちづくり
まちづくりのコンセプト（スローガン）		自然、花、緑を活かしたまちづくり 先進的で落ち着いた町 住んでみようかな---大磯 誇りをもってまち寝かせする 実現方策を通じてNo1を目指す 財政的に豊かなまち
実現方策	自分達で出来ること	住民参加・参画できるまち 地域の資源をもっとよく知る 町の歴史を伝える 近所の人と交流する まちの人が楽しく生活する（できる） 面白い活動をサポートする 具体的な活動の実施
	行政に期待すること	町民の活動のサポート 町民の交流 まちのコンセプトづくり 防災 利便性向上 自然環境の維持保全 調整区域の整備 適正な開発 景観施策

## 2) 地域別構想に向けたワークショップ

第3回、第4回のワークショップでは、地域ごとに分かれて、大磯町の目指す方向からみた各地域のまちづくりのあり方について意見交換を行いました。

地域ごとの特性と課題が話し合われ、将来に向けた地域づくりの方向と具体的な取組の方向が示唆されました。

### 【大磯地域】

テーマ	具体的な意見
自然・水辺	自然とふれあえるような気がしない 海・河川などの防災をもっと考えるべきでは 河川の水質改善と同時に治水も考えるべき 水質改善＋親しめる空間に 川沿い、海沿いそぞろ歩きできる大規模でない公園や遊歩道の整備 公園や川沿い、街道沿い下草刈りなどのメンテナンス 嶋立川・三沢川の水質は改善したのか 旧漁村の街並み整備はやったのか 海の家営業期間・時間を長くする 海岸地区の海浜植物は印象にない 金目川の親水空間整備 三沢川上流の倒木等の処理 海の家を年間営業にして海辺のカフェにしてほしい 海辺でみんなで朝ご飯を食べる日とか、海を町民が楽しめるようにしたい 海水浴場のあり方が少なすぎる 海があるだけで、海を活用した暮らしの提案がない 緑の保全・自然とふれあえる山 具体的には山道整備が必要（今は住民だけでやっている） 気軽に海岸を歩けるように、海岸地区に無料駐車場ゾーンを作ってほしい 自然保全活動のアナウンス
景観	相続等で土地を切り売りしてしまう 塗り込められた戸建て住宅が景観を壊していく 強制力のある細かな条例化・植栽緑化 大磯駅周辺地区の景観保全：住民・業者に対して行政からの指導をしっかりと 町並み改修の緩やかなルールづくり 山や松並木と調和した住宅になっていると思えない（ルールがあるのか）
公園・休憩スペース	町中にもっとベンチを（ベンチには屋根がほしい） すべての公園が美しい町（国営、県営、町営） 海に大きな施設だけでなく佇める場所・スポット・ベンチがほしい 丘陵地にビュースポット・フチ広場・たまり場・ベンチを ビーチバレーのメッカとしての専門コートの開設 海の見える丘のような公園 まち歩きをしてほっと休める場所がほしい
道路整備	東海道と大磯停車場線交差点のスクランブル化（交通を安全にスムーズに） 歩ける町にするには歩道・道路整備が必須 大がかりなものだけでなく、本当に必要な住民のための抜け道が必要
移動手段	シェアサイクルのステーションをたくさんつくる 大磯駅を中核としたコミュニティバスの運行
施設整備	大磯駅前に観光集客センターづくり（高所より大磯の良さを展望する施設） 生活利便施設等の集約化ができていないと思う NCR跡地・企業誘致：マルシェ・市・道の駅などで活用 若い人たちがスモールビジネスをできるように路地の開発が商業活性化に必要
駅北口改札の設置	無人改札があっても良い（監視カメラなどを設置しリモート） 北側の住民が南側まで迂回せずに駅を利用できるメリット 北口の小さなロータリーと迂回路の整備 南口の渋滞緩和

テーマ	具体的な意見
駅前広場周辺エリアの再整備	駅前計画は住民を交えての開発が必要
	バス乗り場：縮小
	タクシー乗り場：2～3台分を除き、別の場所で待機
	一般車を乗り入れ可能にする
	マイカー送迎の代わりにコミュニティバスを充実
	規模と景観は変えずにレイアウトのみ変更
	大規模な開発は望まない
	開発の前に交通量調査「現状を知る」
	別の場で住民を交えた議論
	住民と行政による開発
	駅前安全安心にぎわい計画は大胆に改造すべきなので反対者に負けるな
	駅前改造に現在ある空地も取り込んで予算を掛けて取り組んでほしい
	駅前広場周辺エリアの再整備は開発ではなく調整
	駅周辺の緑はとて素晴らしいが、落ち葉の掃除などがされていないのが目立つようになった
アクサ生命の建物を買い取って駅前開発に活用した方が税金の有効活用になる	
大規模開発を住民は望んでいない、今ある環境を活かしたまちづくり	
化粧坂松並木地区	春の桜の時期に下草が除草されていない
	松並木適切に剪定して
	松並木の景観を守ろう
松並木の周辺の草花の手入れ・ボランティア募集	
下町地区	生活人が集う空間・町並みづくり（SOHO、ギャラリー）
コンセプト	小さな改革の積み重ねが結果住み良い町へ
	大磯らしさの町民の合意をしっかりと統一すること
	駅前改良において議員への教育が必要（最も大事）
	大磯の町政は大胆さが必要、そうでない守旧は死滅する
人口3万人の町の割にはまとまらない町だ（資金不足、人材不足等）	
町民参加	ボランティアがしやすい、楽しくできるツールが必要
町民が行政に意見を言えるグループラインをつくり、誰もが見られて参加できるようにする	
イベント	北浜を活用したジャズ・盆踊りや有料の花火大会・LIVEで税収アップ

## 【小磯地域】

テーマ	具体的な意見
子どもの安心・安全	防災遊具
	防災訓練とまちづくり
	安全・安心に子どもへの視点を入れてほしい
市民参加に工夫を	地区の公園の利用方法を住民に任せる
	意見するための手続きがわかりにくい
	メルマガなどデジタル化で効率化
	ボランティア・ワークショップの楽しさの共有
	残したいものを決める
残したいまちのビジュアル的なイメージの共有	
町づくりを継続して話し合える場を	地区に交流スペースを作っているよという条例を作る（規制緩和）
	交流スペースの建設・整備（空き家のリノベーション）
	町民活動推進のためのスペースを作る（コピー、ロッカー、机、椅子）
	空き家の活用、町民活動の場
	ワークショップの場をつくる
町づくりカフェを常設する、いつでも話せるように、誰でも来られるように	
教育に注力・充実させる	塾のいらぬ大磯
	教育のハードはこのままで良い
	教育委員のレベルを上げる
	教育委員の推薦
	教員のレベルを一番に
	教育費を一番に（安全・安心）
	教育の質を上げるために予算をもっと上げる
小中学校の音楽・芸術クラブに予算を（老人ホームの慰問など）	
コミュニティスクール	
必要なのはソフト、もうハードは要らない	高齢者も子ども食堂に
	コミュニティカフェ、独居老人と子育て世代がゆっくり交流できるスペース・食べ物必須
	自転車道路の活用
町に今ある緑・樹木を残す	樹木を残すために、土地を売る時に元ある緑を残す条例ができないか
	保存樹・名木
	町中の樹木を剪定する人を育て、雇う、住民の樹を守る
	まち並みを作る、樹木のメンテナンス
まちの人材の活用	ハイキングコース整備隊募集
	ハイキングコース整備（道を作る人）
	仕事を作る、森や木を守る人
	みかん狩りのボランティアを募る
	氏子が集まらない神社の管理

## 【国府南地域】

テーマ	具体的な意見
国府本郷西小磯1号線は不要	国府新宿 東西線は当面不要 国府新宿東西線・国府本郷西小磯道路の目的は？進捗状況は？ 石神台にトンネルが出来て二宮に行けるので（仮）国府新宿東西線をお金を使って作る必要はない
優先順位を明確にして進める	提示された方針図を理解していないところで内容が見えない 基本的な考え方は理解できるので今後は優先順位明確にして進めて欲しい 防災に関わる案件は優先させて欲しいが、抽象的表現のものは不要と思う
方針のPRが足りない	町の打ち出しているこのような方針が住民にPRしきれていない 方針図があるのに住民が知らないのがもったいない この方針図を町側は住民に伝える努力と、住民は知り、声を上げる、伝える仕組みを考える 行政の施策として建築指針を指導するなど書いてもらえれば意見は言える SNSやHP(見にくいですが)で情報の伝え方を見直して欲しい
進捗状況を示す必要がある	具体的な施策等で都度進捗を示す 方針図の計画がどこがどの程度進んでいるのか 達成できた物、出来なかった物の分析や今後について見直す、知ることが出来る機会が欲しい 六所神社周辺 街並み形成 景観整備は何もやっていないのでは（OOが歯科医になった）
コミュニティづくり	地区コミュニティ(自治会)の活性化による地域の充実を図る コミュニケーションの場づくりや地域のサロンづくりのための人を配置するなど予算を回して欲しい 地域活性化に対するコミュニティづくり 西地区 学習館をつくる
商業利便性の向上	県道63号線の商業地域（商店）の拡充 国南地域の商業利便性の向上に取り組む
中心市街地の充実	第二の中心市街地をもっと充実させて欲しい 二つ目のまちの拠点づくりは進んでいない 国府支所、まちの拠点があるが特に何をどうしたのか
葛川の整備は進んでいる	葛川の護岸工事はやっている 災害が多くあったので葛川の整備が進んでいるのがわかる
その他	交流・移動手段 道路計画はよい 良好な住環境を整備するとは？ 町側の見解 完全ゼロエミッションハウス 歴史文化を残しつつ宅地開発 ソフト面の充実を！

## 【国府北地域】

テーマ	具体的な意見
住みやすさ	通勤に便利(通勤圏内)をアピール 住みやすさをアピール
10年20年30年先	大磯町民にとってプライド(誇り)を持てる里山、富士見、美しい村
大磯の財政	税収が少なくなっても町民は豊かな生活をしていますよ 自然は素晴らしいが凄すぎる
大磯町のまちづくり	賑わいが生まれれば交通もよくなる 「海と山に囲まれた緑のまち」と言うが、今は近寄ると荒れ放題
国府北の長期プランで検討	里山の駅 西久保 富士の見える場所、お地藏さんのある場所、里の駅(個人の土地)など 虫窪のトイレ(美化センター管理)は必須 スポーツ広場は大人が利用、子ども達の通学路でもある 虫窪 富士山が見えるところ、駐車場のあるところは人を呼ぶ(トイレもある)
里山に期待	里の駅 自分たちで値段をつけて売る(雇用が生まれる) シビエ、野菜、海のものも置く 里山実現のためにできること=里山ファンド(案) 富士山が見える 海が見える 特産物がある お地藏さんが拝める ご来光を拝める 桜だけでなく、四季を通じて花を植える 菜の花(個人でも植えている)=里山フラワーロード(案) 地元の有志で動き始めている 地域が動けば町も考えてくれる



テーマ	具体的な意見
里山再生のプロジェクト化	農地を荒らしていると固定資産税が1.8倍 手が入られなくなり畑が荒れ獣害 相続の心配⇒農地と山林を持っている人 行政も努力して里山再生、農地利用、竹林整備をプロジェクト化 のどかな富士見地区にしたい
竹林問題 (誇りを持つために解決すべき課題)	荒れた竹林→町が放置せざるを得ない状態のもの 以前は竹に需要があったが今はない 竹がお金になるようなしくみ(竹チップ、竹炭など) 利用し続ける 竹林の整備と併せて道路整備、富士山の見える絶景散策ルートをつくる 城山公園のようなきれいな竹林にしたいが労力が大変すぎる 少しずつ一歩一歩 皆で協力して整備するしかない 10年後20年後きれいになっているとしないと若い人は皆出てしまう 荒地を整備する産業 竹と竹の間は2m必要(美しい竹林の条件)
チームを組織	金がないからと言ってできないことはない 防災、山林の荒廃を防ぐ等々 プライドを持ち続けるには「チームを組織化」
雇用をつくる	自分の得意としていること 山を整備する技術 ピーマンが美味しい オートバイが自慢 ゴルフ上手等々 農作物のネットワークがある
シルバー人材の雇用化	シルバー人材伐採専用プロジェクト 仕事生まれれば雇用になる シルバー人材を雇用に変えていけば… 伐採時用の人材を育成
自分達で魅力を創るべき	若い人の大磯の魅力 プリンズホテル、ロングビーチ 観光バスが通るルートが有名になっているだけ(吉田邸など) 自分たちで魅力を創るべき(菜の花畑など)
事業化	虫窪の里山構想(2月にオープン) 山は人の手をかけてはじめて里山になる
空いている土地、家の利用	最近生沢にコンビニができた
町のなかの交流	落葉をください 薪ストーブの木をください 里山事業ができれば交流も生まれるだろう
楽しむこと！ (皆が集うことは楽しい)	生沢のお祭りには大勢集まり、多くの人が知り合え楽しむ 行政の支援で山をきれいにするお祭り 町全体で海山をきれいにする一日にしまようという楽しむお祭りイベント 竹を切って持って行けば特典があるイベントなど
若い人の意識・活動	生活に必死 池の会 黒岩の60歳以下の方の集まり 年に2回バーベキュー(20~30人集まる)おまつり、コミュニケーション 60代以上になってやっと町のことをどうしようか考えられる 池の会を卒業したらいずみの会 ずっと人生を楽しむための会 若い人がまちから出ているのは必然性がある あとで戻ってくるようなまちづくり 畑付きの家(面倒くさいがちょっとした贅沢) 便利もあれば贅沢もある
他所の情報を収集・利用	町の職員も他所の情報を集めるべき 松田・開成町でもちょっとした紫陽花、桜などでも人を集める 生沢の蓮があったがザリガニが多くなり全滅した
「いいもの」を行政でPR	突出した事実を創る

### 3) ワークショップから得られた全体構想への示唆

全4回のワークショップで明らかになった大磯町の良さや課題から全体構想に資する内容を整理すると次のとおりです。

- 海と山と川に囲まれた豊かな自然環境があるが、保全されていない。手入れがなされ、利活用され、人が入る・入れる環境にしていく必要がある。
- 商業施設やカフェ、宿泊施設や物産店の立地促進



#### 地域特性を活かした持続可能な土地利用の実現

- 歴史・文化資源に恵まれており、数多くの著名人が居住
- 松並木や路地の景観、まち並みの雰囲気が良い



#### 新しい大磯らしさが実感できる景観形成

- 私道が多く通行困難な道、迂回路が少なく一方通行が多い
- バス路線を充実してほしい
- 歩道が狭く、歩行者回遊路があると良い



#### 移動可能性を維持・向上する交通サービスの拡充

- ハイキングコースや歩いて楽しい憩いの場がほしい
- 管理上の理由から公園の樹木が伐採されるので、残す工夫が必要
- 合併浄化槽などの普及を進めて、河川の水質を向上



#### コミュニティが支える水とみどりの連携による地域づくり

- 防災、防犯には住民同士の顔が見えることが必要
- 災害避難時の高齢者の避難場所の確保が必要
- 西湘バイパスの強化等による災害時の物資輸送の確保



#### 減災意識と適応力による安全な町の確立

- ゴミ出しルール等の問題が顕在化
- 行政に頼らず住民自治のまちづくりができる
- 昔ながらのコミュニティが残っている



#### コミュニティと共生する良好な居住空間の形成

- 起業支援などの経済がまわるしくみが必要
- サテライトオフィスやIT化で若者の雇用創出
- 環境と共生できる産業の誘致による雇用創出
- 昔ながらのコミュニティが残っている



#### 地域の活力とコミュニティを活かした大磯らしい産業づくり

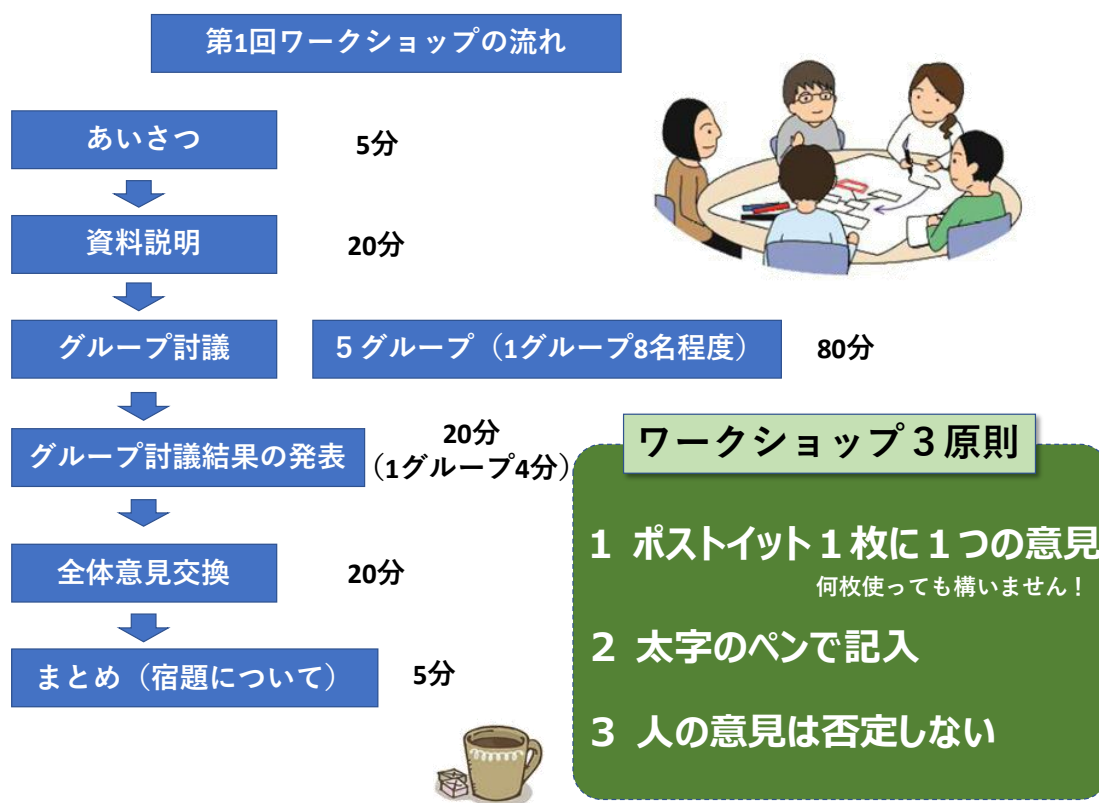
### 3 各回のワークショップの概要と結果のまとめ

#### 1) 全体構想に向けたワークショップ（第1回）

##### ①実施概要

日 時 令和元年 10 月 14 日（月・祝） 09:30～12:00  
場 所 大磯町保健センター 2 階研修室  
参加者数 18 名

##### ②第1回ワークショップの流れ



##### ③第1回ワークショップ（グループ討議）

10月14日（月・祝）、大磯町保健センター2階研修室を会場に、総勢18名の町民の皆さんのご参加により、大磯町まちづくり基本計画策定のための第1回ワークショップが開催されました。

最初に、事務局より現行のまちづくり基本計画の概要、まちづくりを取り巻く社会経済状況の変化、大磯町の概況について説明が行われ、実際のワークショップへと入りました。

ワークショップでは、4つのグループに分かれてそれぞれ自己紹介から始め、次に第1回のテーマである「大磯町の良さ」と課題について、ポストイットに記入をしながら貼り出していきました。

その後、記入した内容を踏まえ、各グループによる話し合いの結果を発表していただきました。  
各グループの結果の概要は以下のとおりです。

## 1 班

大磯町の良いところは、「自然が豊富」「海と山に囲まれた豊かな自然環境」等、自然に関する意見が一番多く出ました。大磯町の課題は、「スケールが3万人」「お金が少ない」「待機児童問題」「子どもが減っている」「高齢化が進んでいる」「商業施設が少ない」、「駅前開発について町民中心のまちづくりがされていない」「町政のリーダーシップが薄く感じる」等が挙げられました。一番の課題として、「ブランディングの方向性がわかりにくい」ことが挙げられ、大磯の特徴は、自然や文化ではなく、地域の多様性、人柄の多様性等、「多様性」があることが挙げられました、話し合いの場がたくさんできれば、それが“縁”となり、もっとよい活動ができるという話になりました。

大磯の良さは「コミュニティ」であり「縁」であるという話でまとまりました。

また、町民の方でこれをやりたい、そのサポートとして行政がこのような支援するというボトムアップ型の行政であって欲しいという話になりました。

住民のブランド化、魅力を創るということで、移動支援のデマンドバスやマイノリティにとっても住みやすい住民サービスの行き届いたまちづくりがされるとよいという意見が出されました。



## 2 班

大きく4つの話がされました。

1 つ目、大磯は景観やまち並みに対する思いが強く、まち並みを大切にしたい風土があるが、残念ながら壊れつつあることが大きな課題となっています。

2 つ目、東西の交流・回遊が問題となっています。交流をする中で、人と人が交わり顔が見えるようになることで、防災や防犯にも寄与できると考えました。

3 つ目、質の高いイベントが継続して続けられているのが素晴らしいが、新しいイベントが出てきた時、それをどう継続させるかに課題があると思います。

4 つ目、「雇用が少ない」「産業が少ない」ことです。できれば町の中で働いて町の中で暮らして食べていけて、町の中で完結できれば良いという話になりました。



### 3班

大磯町の課題として大きく3つ出ました。

1つ目、建築指針や地区計画を取り入れて、絵になるまち並みを作るということを目標に進めたらどうかという意見がありました。緑だけでなく花も含めて取り入れるとさらに町全体が明るく、すばらしくなっていくだろうという意見がありました。

2つ目、国道1号が機能しなくなったときに、271号から入ってくる1号線や大磯町の駅に入れるような緊急輸送を町道として確保する必要があるという議論が出ています。海沿いの道路はほとんど通行できないということを想定した上でまちづくりをやっていく必要があります。

3つ目、大磯町周辺の市や町を含めて産業が減少しないような方策をもっと取っていく必要があるという意見がでました。



### 4班

大磯町の良さ

「自然・歴史がある中、安心して暮らせるまち」、知名度が高く、ノーベル賞受賞者、柔道のオリンピック選手等、著名人が多くおられます。

大磯町の課題

「良いところが活かしていない」。自然や歴史を活かして、施設を作って歴史をアピールするような場（箱物）、皆が集まるコミュニティーの場、少し質の良い、大磯の人達が欲している施設などをつくることで、他からの流入にもつながる。このようなリソースがある中、上手く使い切れていないという課題があります。

教育についても、地元の小中高で同じ人が同じように上へ上がっていくのであれば、小中の9年、もしくは小中高の12年一貫のカリキュラムにすることで、リーダーシップを取れる国際的な人材が育てられるような教育環境ができるのではないかと話が出ました。

まちづくりのポイント「一番を作りましょう！」

いろいろリソースがあるが、光る一番のものが無いが故に方向性がぶれてきてしまっているのではないかと感じています。一番が見つければ、方向性が見えてくるかもしれない。一番が無いが故に色々課題が出て来てしまい方向性も見えないのではないかと感じています。





#### ④第1回ワークショップのまとめ

##### 各班の主な論点

- 1班 話し合いの場、それが縁になる
- 2班 地域間の交流を増やすには「回遊」できるようにする必要がある
- 3班 自然環境は良いが、美しいまち並みを守っていくのを担う若い人の流入が必要
- 4班 良いところを活かせていない、今後それをどう活かしていくかが課題

##### 講評 松本会長（大磯町まちづくり審議会会長）

住民参加・市民参画は難しいが、そこが重要で、例えば3班からは「尻切れトンボ」とか「町民の言いっぱなし」「行政の言い訳のための市民参加」にならないようにという意見も出ていたので、是非、行政やコンサルの皆さんに留意していただきたいと思います。

皆さんが大磯に暮らしていて暮らしの中からの発想と、世の中全体の大きな動きの中で、自治・暮らし・地域等が変わってきています。人口減少、高齢化が進んでいる中、大磯の暮らしがどう変わっているか、どのように社会が変わっているか3点話をさせていただきます。

1番目は、昔は開発の圧力に対して、いかに良い環境を守るかの規制でありました。それも必要ですが、規制（コントロール）にプラス経営・運営・管理の価値観を入れて、今は「マネジメント」、地域を経営している、町が経営するのではなく、町プラス町民が経営する形に変えることを言われています。良い環境を守りつつ、働く場と産業、環境を起こしていく。その掛け合わせをどうするかが、大きな視点であると思います。

2番目は、役所がする話と民がする話が切り離されてきましたが、今は、公民が一緒にならないと世の中の問題の解決になりません。例えば、空き家は個人の財産ですが、法律を作って地域を何とかしないと地域が回らないので、民の領域に公が入っています。また、町の施設も民間が管理しないと回らないので、指定管理やPFI等、いろいろな形でやっており、今は公と民が掛け合わせしています。

3番目は、高齢化や通信情報技術が発達しているので、「関係性の分断」ということで、コミュニティが弱体化していると一般的に言われています。高齢化により、お年寄りが自治会活動ができない状況も含めて、町内会の加入率が落ちています。そういった中、いかにコミュニケーションや地域の力を守っていくかが、日本全体で課題になっています。

その3つの世の中の「地域」・「自治」・「暮らしを取り巻く環境」と今、皆さんが考えている大磯発の課題を如何に掛け合わせていくかが重要となります。1班がすごいと思ったのは、強みと弱みを踏まえて如何にチャンスに変えていくか、或いは強みがもっと新しい脅威になるのではないか。良い環境が守られてきたが、強みと弱みに合わせて、チャンスと脅威に対してどう立ち向かっていくかという話も必要だと思いました。3班では、住宅地の問題で、第1種低層住居専用地域ということで、専用住宅があったところが少しずつ衰退するが環境を守りたい。地区計画を入れて住宅多様性にして、例えばコミュニティカフェにするとかテレワークの事務所にする等、環境と多様性の議論をされていた。大磯ではそのような議論が重要で深めていければとても良い新しい基本計画になると思います。

⑤第1回ワークショップグループ討議の詳細

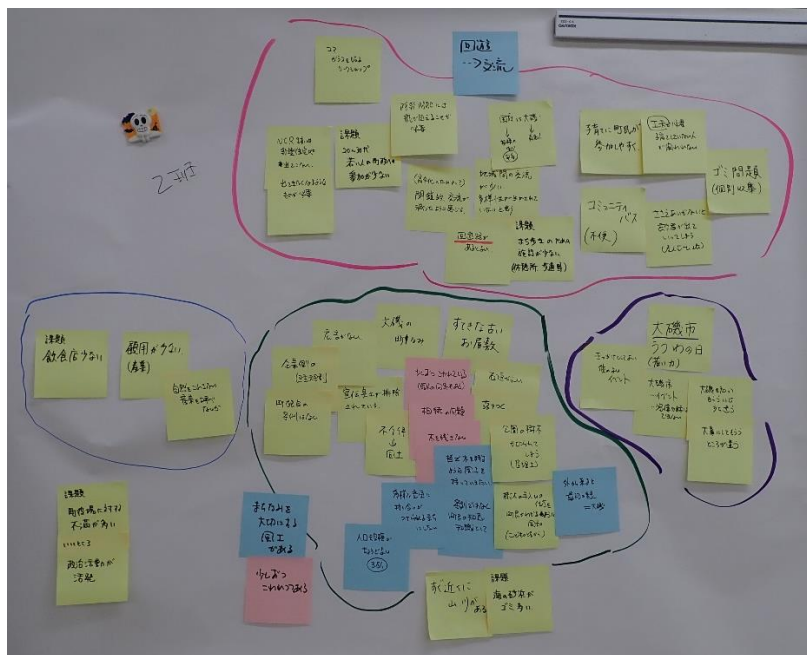
1班

テーマ	よいところ	課題
自然・環境	海と山に囲まれた豊かな自然環境	大磯が他と比べて自然環境が圧倒的に良いとは思わない(どこも住めば良い所)
	海と山の幸が豊富	逆を返せば、自然以外に良い所が無い
	海が近い	
	緑が多い	
	空気が澄んでいる	
まちの規模(スケール3万人)	駅周辺の雰囲気が素敵	文化も意味はあるがそれに頼るほどの価値はない
	人と人が知り合える 知り合いがいると悪いことができない 縁をつなぎやすい	お金がない 事業が育たない
多様性	行政に頼らないまちづくりができる	経済がまわるしくみが必要・若い人を呼ぶ必要がある (サテライトオフィス・5G等働く場・IT化)
	地域の多様性(環境)	西と東でまちのトーンが異なる(吉田邸を境に感じる) 大磯の良さの考え方が地域により全く違う
町の状況	人の多様性(人となり)	石神台は大磯への愛着が強くコミュニティがしっかりしている 古くからの人(悪くない・このままでよい)新しい人(何か新しいことをしたい)の意識の違い 大磯で働いている人と大磯以外で働いている人の意識の違い
	道路・交通	私道が多く車社会において通行困難な道が多い 駅前タクシー問題 コミュニティバスが充実してほしい 迂回路が少なく一方通行が多い 大型商業施設までのアクセス改善
	産業・施設	東海大・大磯病院がある 道の駅にマルシェがあったらいい 商業施設が少ない(身近に買い物ができる店がない・やっとなりエイトができた程度)
	憩いの場	ハイキングコースに憩いの場を 海辺と町の間に憩いの場を お茶のみカフェetcが少ない
	子ども・子育て 高齢者	自由に遊び過ごせる施設が欲しい 保育園待機児童も無い 子どもが減っている 高齢化が進んでいる
行政サービス・施策	今あるお金・今ある試算で町民が・町が何ができるか! 住民サービスを充実してもらいたい 経済を回す意識が薄く感じる 町政のリーダーシップが薄く感じる 子育て・介護以外のマイノリティの肩身が狭い 子育て・介護も含めた大磯を考えてほしい 駅前開発について、町中心のまちづくり	
ブランディングの方向性がわかりづらい	<p>今までのブランディング(ポジショニング) ”自然環境””文化”</p> <p>↓</p> <p>これからのブランディング(ポジショニング) ”縁のつなぎ方”</p> <p>3万人の縁=ぶつかっても交流の場を設ける (新旧住民・西と東・子育て・介護・それ以外の人)</p>	大磯は危機感がない まちなみが揃っていない 海や山に真剣さが無い海の家や避難タワーなどまちづくりの全体像が中途半端 葉山や箱根に張り合う必要はない



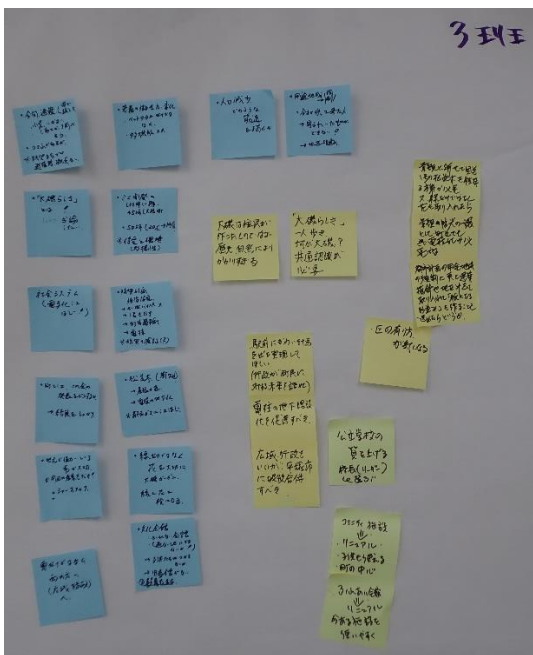
2班

テーマ	よいところ	課題
大磯の街並み	街並みを大切にしている風土がある	少しずつ壊れている
	素敵なお屋敷	相続の問題
	石垣がよい	
	広告がない	
	企業側の自主規制	
	町独自の条例はない	条例ではなく町民の知恵、知識として
	不文律の風土がある	
	すぐ近くに山、川がある	海の砂浜にごみが多い
大磯市	人口規模が丁度よい	
	落ち着く	
	器の日は若い力を感じる	開発時に木を残さない
	きっかけとして質のよいイベント	公園の樹木が切られてしまう(管理上) 皆で木を残す風土を持っていきたい 樹木の手入れの仕方を町民がわかるように周知(子どもの頃から)
交流	器の日は若い力を感じる	大事にしようところが違う
	きっかけとして質のよいイベント	大磯を知ってもらうには少し違う
		密接な話はできない
	高麗にはガラスを貼るワークショップがある	地域間の交流が少ない
		多様性が活かされていない (高齢化のためか)閉鎖的
		交流が減ったような気がする
		ささえあいがないと高齢者が出て行ってしま(老人ホーム等へ)
		国府(相模の中心/平安時代)と大磯(有名人)の構図
		防災・防犯には顔が見えることが必要
		20~30代の若い人の町政への参加が少ない NCR跡地の住宅地のひとが出てこない →出てきたくなるようなものが必要 回遊路があるとよい
産業		子育てに町民が参加しやすく →子育てしていない人が関われない →工夫が必要
		不便→コミュニティバス
		ごみ問題→個別収集
		飲食店が少ない
その他	政治活動が活発	雇用が少ない(産業)
		自然をこわさない産業を呼べないか
		町役場に対する不満が多い
		多様な意見に折り合いがつけられるまちにしたい





テーマ	よいところ	課題
大磯らしさ	大磯は自然や歴史などによりかかりすぎて、住民が創ったものではない。	大磯らしさをひとり一人が認識して行くことが重要である。
景観	大磯には「松並木」に代表される景観資源がある。	この景観特性をさらに活かすために、花や建築デザイン(屋根や色)に工夫すべきである。 無電柱化は重要であり、町道でも積極的に行う必要がある。
少子・高齢化	我国は少子高齢化に向かっており、大磯町は神奈川県下では高齢化率が高い。	高齢化の波の中で、社会システムを変えていくことが重要である。例えば、行政書類の簡素化など工夫できるところから実行していき、大磯町の動きが遅い気がする。
防災	安全・安心は、生活する上で最も大切であり、大磯町は暮らしやすい町である。	台風19号の避難の時、高齢者の避難場所の確保が問題となり、きめ細かな対応が教訓となった残った。 今回の台風の時、西湘バイパスは交通止めとなり、現在も交通できない。災害時の物資輸送を考えると、東西方向から南北方向の強化が重要であり、町道の広域避難路の指定も想定していく必要がある。
にぎわい・コミュニティ	昔ながらのコミュニティが形成されている場所がある。	地域によっては、閉鎖性の所があり、周辺地域のとの交わりを行わない。 大磯駅は、町の拠点としてにぎわい創設する地区だろう。
若者	最近、若者の働き方が変化し、大磯にも都会から移住してくる人がいる。	若者の多様性を支援するような動きが少ない、せっかくのチャンスを活かしていく必要がある。
都市計画		都市計画の用途地域では、土地利用誘導と規制が行われ、一定の成果はあるが、きめ細かな対応(商業施設の住宅地への立地ができないなど)に問題がある。そこで、柔軟な対応ができる「地区計画制度」の活用を検討すべきだろう。
学校		大磯町を対外的にアピールするためには、教育水準(質)を上げることであり、校長(リーダー)を選ぶことも必要である。
主要施設		コミュニティ施設をリニューアルする時は、子供たちの利用を考えて、町の中心に配置して欲しい。 既存施設の活用が重要で、例えば「ふれあい会館」はもっと使い勝手の良いようにしたい。
広域連携		広域行政の議論よりは、平塚市との吸収合併が重要である。 大磯町の広域行政を議論すると、東方面ばかりの話題になるが、西向き(二宮町・小田原市)も検討すべきだ。
要望		この会議の結果をどのように反映し、公表するかを明確にして欲しい。



4班

テーマ	よいところ	課題
一番づくり・知名度	ユニーク	一番を一つ作る
	全国的に知名度が高い×2	昔・懐かしいというイメージから脱出できない
自然	山と海がある	太陽がいっぱいなのもったいない
	山と海の活用 アイデアによっては大きく変化できる チャンスがある	海が生かされていない 海の家も古すぎる
	自然が多い 自然環境に恵まれているのでストレスが少ない町	海の見える温泉がほしい 銭湯がほしい まだ使われていない人的／自然資源が多い
資源	歴史・文化的資源に恵まれている	特産品 ワイン みかんパン(180円)
	歴史を持つ町	まだ使われていない人的／自然資源が多い 住民がレクリエーションに参加する場所が少ない(二宮は多い)
		健康増進センターを作る 海の公園に大規模な施設をまとめる(温泉)
	大磯には大学病院があるので安心	魅力ある施設がない 人が集まらない 医療機関について不安 病気時に不安 東海大病院ではダメ ※東海大病院の拡張用地買収 議決後に裁判で紛争 ※文化と活躍の場づくり(多世代によるオペラなど) 高齢者が憩える場所づくり
産業		町予算の0.5%を何かの研究開発費
		最近観光客が増えたがお金を落とさない(宿泊施設や物産品が少ない)
		若い人を集める知恵がない(鎌倉は若者のIT起業促進をしている)
		地域に働く産業が少ない
		商業(買物)地区が少ない
		商工業の経済力が弱い 新しい企業誘致で税収UP(環境、IT) 砂利運搬港はなくせないか 大磯には不要な施設
道路・駅前広場(基盤)		大磯町の東西の格差がないか(大磯と国府) 駅前開発の案は突然町民に知らされたが、どんな過程で提案が出てきたのか 政治不信
		歩道が狭い
		大磯駅前広場から車を追い出す 反車社会 基幹道路が国道1号だけなので商業集積ができていない
安心	のんびり平和 治安が良い	
教育		教育方針が不明確 教育の大きな具体的ビジョンがみえない 子どもを育てる 居場所作り(特に育児) 教育委員会はいらない 無駄! 多言語教育による国際化 町で英語を話せる場づくり
		人口構成比(少子高齢化)に対応したアイデア まだ使われていない人的／自然資源が多い
人材・意識	若くて活躍している人がいる	古い人間が多い
	芸術・文化人の匂いがする イメージがある	若い人が町政に不参加
	国際的なリーダーを生み出した	若い人の町政への関心が低い
	様々な経験を持った高齢者がいる	高齢者を高齢者として扱うのではなく活躍の場を作る 考え方が古い 一部の議員のマナーが悪い 町への理解が少ない 町民の危機感がない
体制・町政	コンパクト(人口3万人)なので新しい施策を実行しやすい	町民意見のフィードバック(見える化) 反対意見が賛成意見? 大磯町自治基本条例あり 基本計画は理念的でぼんやりしている 広報の方法に問題はないか(町の方針が見えない) 若い人が町づくりに参加しやすい仕組みがない 議事録の反映が遅い “有識者”の選び方が納得できないことがある この会の趣旨を住民に充分伝えていないのではないのか 外部の意見を聞くべき 色々なスローガンが多すぎる 形式だけの住民説明会 抵抗勢力が多い 基本計画が複雑で理解しにくい 税収を上げる機会が他と比べて少ないのではないのか 他の市町村と異なるキラリと光る計画がない 町民の考え方優先で本当に良いのか 住民が町のために働ける仕組みがない

## 2) 全体構想に向けたワークショップ（第2回）

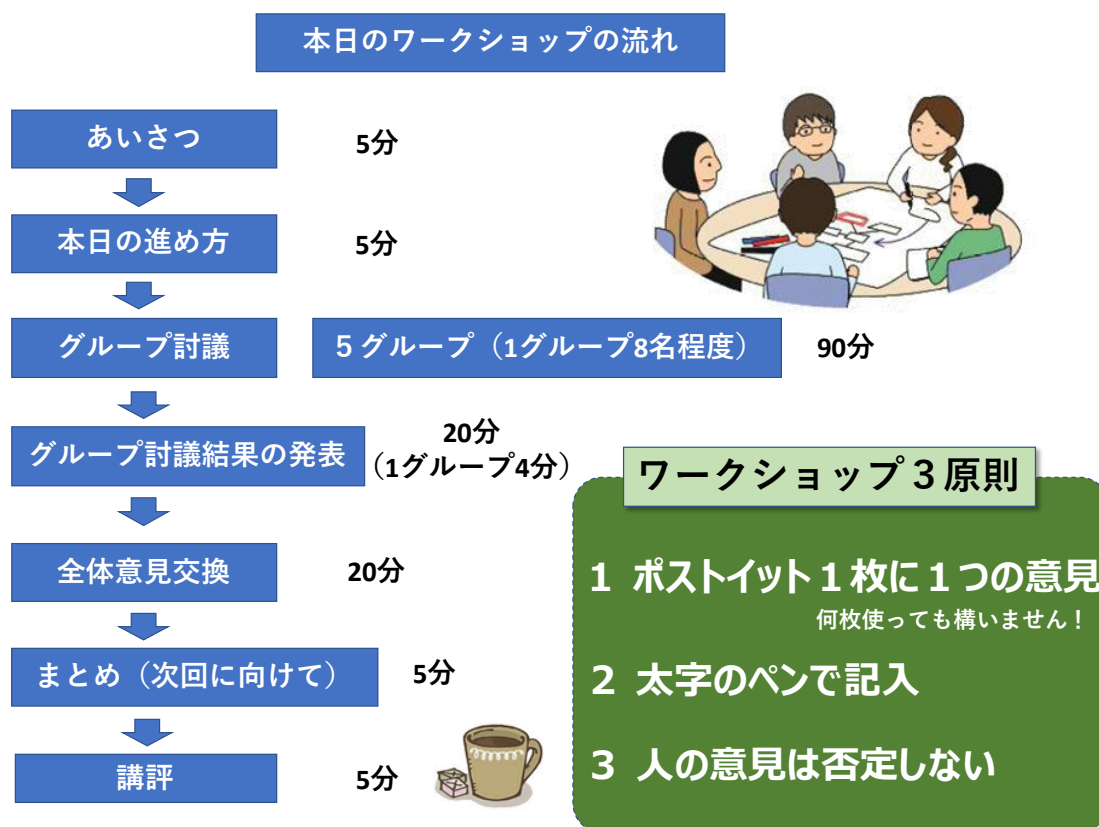
### ①実施概要

日 時 令和元年 11 月 2 日（土） 09:30～12:00

場 所 大磯町保健センター 2 階研修室

参加者数 22 名 傍聴 1 名

### ②第1回ワークショップの流れ



### ③第2回ワークショップ（グループ討議）

11月2日（土）、大磯町保健センター2階研修室を会場に、総勢22名の町民の皆さんのご参加により、大磯町まちづくり基本計画策定のための第2回ワークショップが開催されました。

最初に、事務局より第1回ワークショップで得られたキーワードの説明があり、第2回は目指すべき将来像、地域で出来ること、行政で出来ることをテーマに、ワークショップへと入りました。

ワークショップでは、4つのグループに分かれて、第2回のテーマである「まちづくりの方向と達成方策」について、フセンに記入をしながら貼り出していました。

その後、記入した内容を踏まえ、各グループによる話し合いの結果を発表していただきました。

各グループの結果の概要は以下の通りです。

## 1 班

「住民ファースト」で住民が自分達でまちづくりを積極的にできるような仕組みが大切なのではないか。それに対する「HOW」では、「日本で初めてベーシックインカムを取り入れたまち大磯」としても面白いかもしれないと考えました。

「生産世代が住める町にする」ことが大切で、企業誘致も大切ですが、企業誘致+アルファの観点がとても必要で「生産世代がいかに住めるか」を考えたら良いということでした。

10年後、20年後に生産世代になる今の世代が、「このまちに住んでいて良かった」と思えるように、一人ひとりが主人公になる町であることがとても大切で、そのためにも財政的にどのように豊かにしていくかも大切である。

「コミュニティバス等、外出が可能になる仕組みがあり、一人ひとりの健康寿命が伸ばす「健康である」ということも大切である。

『住みやすいまち』という評価の基軸として、病院や商店など身近な利便性も少しはアップしたほうが良いという意見もでした。

### スローガン

- 「高齢者・こども、子育て世代に優しいまちに」
- 「生産世代が地域で自立して仕事ができるまち」
- 「町民の生活や文化活動を支援するまちづくり」
- 「町民のひとりひとりが主人公のまち」
- 「生き生きと自発的に動けるまち」





## 2班

「逆開発」の発想も必要なのではないかという話があり、どんどん開発するより、今のままを守りつつむしろ自然に回帰する動きが目指す将来像ではないかという意見がありました。

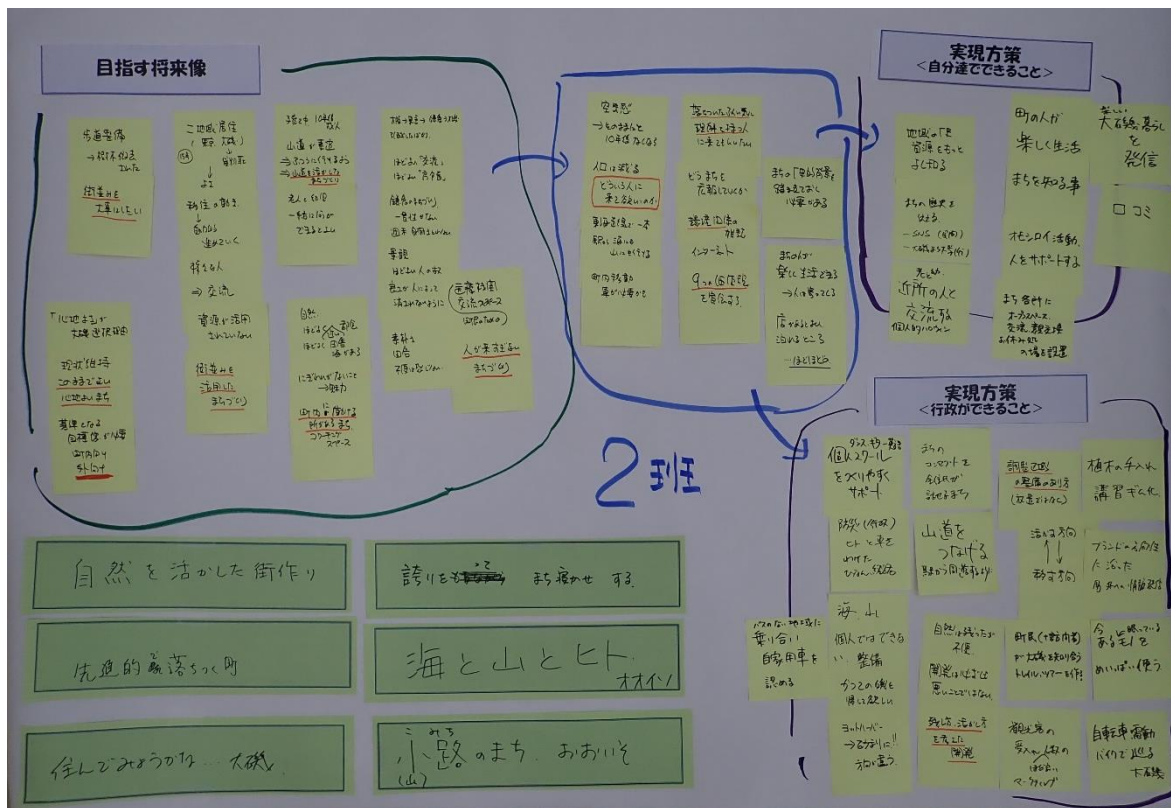
「町おこし」という言葉に対して、「まち寝かせ」をしたらよい。町を起こすのではなく、なるべく今のままを維持しましょうという意味で、賑わいではなく賑あわない＝寝かせておくこと。寝かせておく町があまりないので、それ自体が価値があるのではないかということです。

これから人口が減る中、落ち着きに対して理解のある人、自然環境問題に意識が高い人、町並みを守っていかうとする人達をターゲットにして大磯に住んでもらう、遊びに来てもらおうとよい。それを実現するためには、自分達が楽しく生活している姿、落ち着いた環境の中で仕事でも子どもと親が近く、ちゃんと生きていけるという姿を自分達が体現していれば、それをことさら外に発信する必要もなく口コミで広がるだろうという話がありました。

地域の資源をもっと知ることで、それを口コミやSNSを使って広げる活動は自分たちでできる。

行政ができることは、逆開発にもつながるが、調整区域の整備のあり方、今までは開発を止めるという意味での調整区域があったが、逆に戻していく、まちの開発をコントロールしていくこともできるのではないか。

「ブランドの方向性に沿った情報発信」「自転車やバイクが走れるように」「交通の乗り合い自動車が便利」等、交通の話も少し出てきていました。



### 3班

#### 目指す将来像

「大磯町の教育を全国で一番にしよう」

「IT 技術を取り入れて町の運営を進めてほしい」

「自然災害に対して、電線の共同溝化」

「たまやの側の空き地を防災公園にして災害時に土を盛って高くして避難所に使う」

「海・山・動植物を含めた全体的な構想を練り、サスティナブルな社会環境を備えると良い」

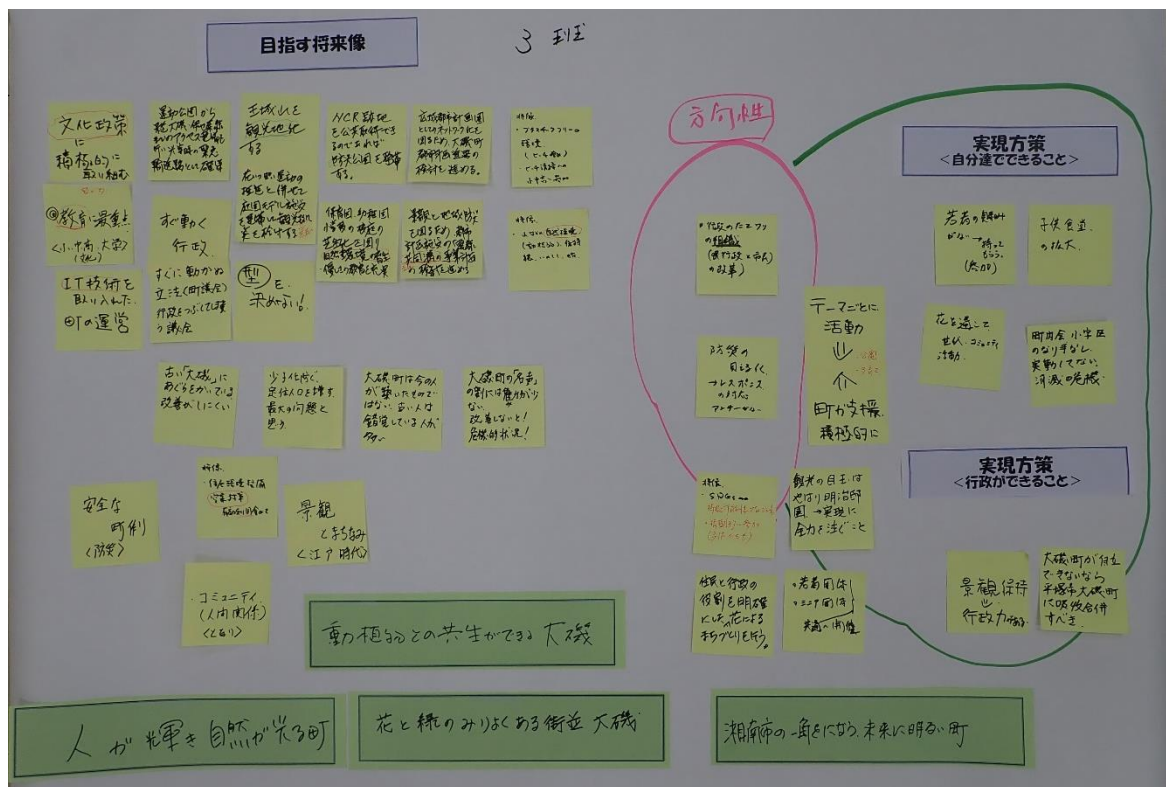
観光では、明治天皇が来て海を見た名所と言われている高麗山貯水場を整備して観光に役立ててはどうか

道路・海等、役所が縦割りなので横串を刺せるような組織改革をしたらよいのではないか

防災の見える化、コミュニティを作る時、子ども食堂を運営してそこに人が集まる時、駐車場の整備（フリーの駐車場完備）などができればよい

石神台の方が花を通して若い世代とコミュニティを構築している。若い世代に町に入ってもらうためにはコミュニティの充実が必要なので、そのような方策を、花・自然を含めて図ってはどうかという話が出ました。行政がもっと批判を恐れず民間のコミュニティを支援していき、お互いが役割分担をしながらまちづくりをしていけるスタイルになると良いと思います。

まとめとして、「人が輝き自然が光る町」「花と緑の魅力ある町並み・大磯」というスローガンができました。



## 4班

「大磯コード」を作ろう

大磯らしさをもっとまちと住民がきめ細やかに定義にし、その定義の範囲内でこれをしているともう少し言えるようにすべきだと思います。

何かのジャンルか何かのテーマでNo1を目指す

達成目標を決めたら、何かのジャンルか何かのテーマでNo1を目指すということを結論にしたら良いのではというのが4班の意見です。

「定住」では、教育に強いまちを作ったら、子育て層も働く世代が注目する、今は自宅で仕事ができる仕組みがあるので、大企業のサテライトオフィスを呼んだり、一般の住民も来たり、一つのテーマでやれば実現できるという意見になりました。

コミュニティでは、町内会でキッチンを共有すれば子ども食堂も実現できる。車もシェアして使うと車の台数も減る。そのようなシェアリングコミュニティの話が出ました。

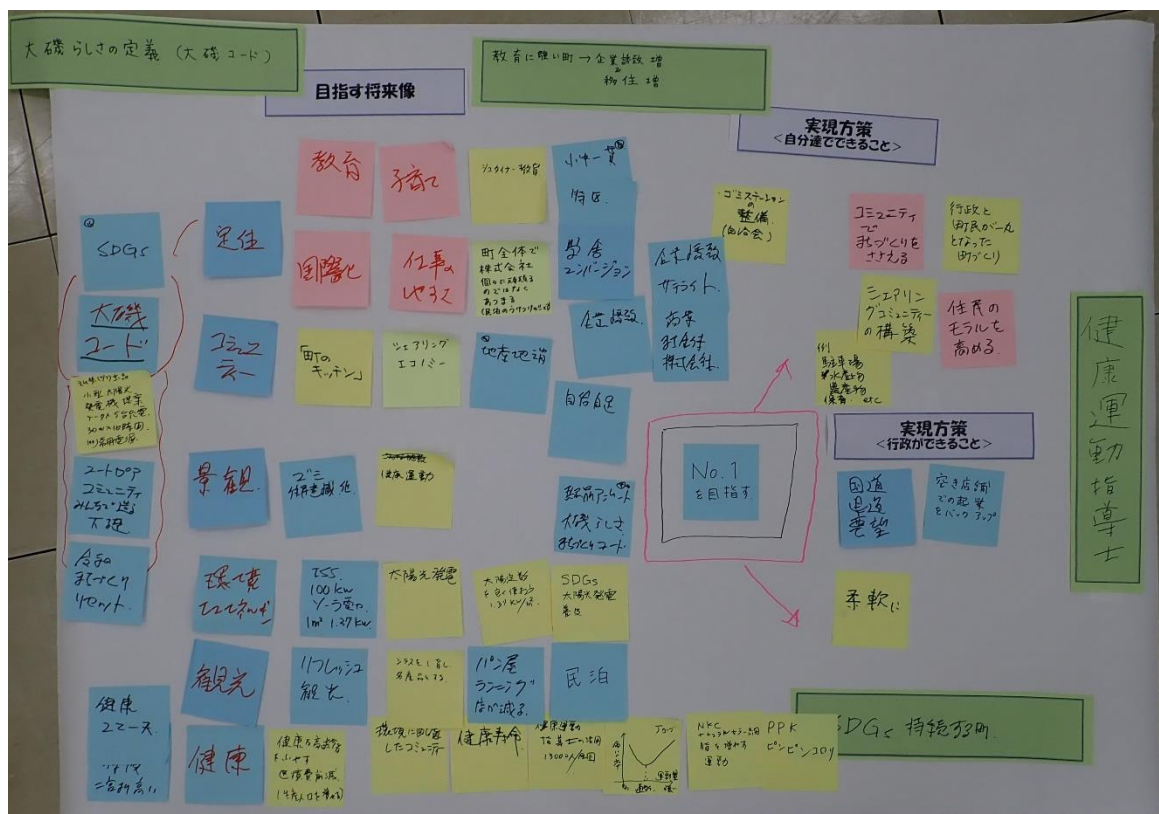
景観では、ごみの出し方の意識を変えて回収のやり方を考えた方が良い。

環境では、太陽光発電をそれぞれの屋根に付け、地球に優しい発電ができないか

観光では、都内の人がりフレッシュしに来るような観光のコンテンツをたくさん作る。民泊の受付を町でシェアして、受付業務をカフェで受け持てば、民泊に参入することもできる

健康では、高齢者に向けて健康体操促進のため、定期的に通える場所を増やすのもひとつだと思います。

行政には、やってくれと言うだけでなく、住民が自発的にまちづくりのためになる行動を取れることが大切であるのではないかと感じています。



#### ④第2回ワークショップのまとめ

##### 各班の主な論点

- 1班 目指す町の姿が「一人ひとりが主人公になるまち」
- 2班 「まち寝かせ」、今のままで良いという意見と必要なお店や人を増やすがほどほどに
- 3班 持続可能性、コミュニティについて、もう少し行政の支援が必要なのではないか
- 4班 「大磯コード」、目標を決めてNo1を目指す

##### 講評 中井副会長（大磯町まちづくり審議会）

全体的に見て、皆さん考えていることはあまり変わらないと思いました。もちろん細かいところは違いますが、今日の発表でも、違う意見もでていますが、同じことは同じところもあるようでした。その辺を整理していただきたい。

多く出たトピックは、大雑把に言うと「自然」と「開発」に分けられると思います。開発は、道路を作るだけでなく、人のシステム、人のつながりを含めた開発のことです。今日までのところは、理念的なところが多いということが一致していること。それを具体化・具現化するところでいろいろな違いが出てくると思います。

基本計画なので、理念でよいといえば良いが、ではどうするのと言う時にいろいろな話が有ると思います。自分と考えているのと同じだとか違う等、考えながらやっていただいたほうが、よりよい議論となるだろうと思います。おそらく、メインとなるもの、サブとなるもの、サポートとなるものという考え方にやり方が分かれると思われます。「これをやります」、それは「このために」という話があると思うので、そのようなところを考えながらやると有意義になると思います。

##### 講評 加藤委員（大磯町まちづくり審議会）

大磯は、大磯特有の地域社会があるように思います。数百年お住まいの方が地層にありまして、其の次に50年～100年、150年かもしれませんが、代々住まわれている方、それからそれ以降、新たに転入された方がいる。層とすると第1・第2・第3層と地層のようになっているかと思います。

「まち寝かせ」といった自然回帰的な考え方、逆開発とも言われていましたが、どちらかという、今まで大磯が歩いてきた道を淡々と自然体でいきたいねという話も面白く聞かせていただきました。第3班が、自然環境の全体構想が必要なのではないかという話で、これは大磯独自の話のような気がします。是非、作っていただきたいと思いました。

第1から第2、第3をつなげる大きな軸は、当然のことながらコミュニティの充実が必要だと思います。今の時代一番重要だと思っており、大きな台風が来たり、防犯面でもいろいろな問題が出てきているので、どのようにコミュニティをつないでいくか、それは、淡々と大磯らしくやっていくのだろうが、その辺をどう整理していくかがあると思いました

4班は、非常に具体的で明確なキーワードを出していて、既にやっていること、これからやりたいことの両方があったので、まず整理して、これは行政が支援できる、これは自分達がやらなくてはいけないという整理が大きなステップになると感じました。



⑤第2回ワークショップグループ討議の詳細

1班

テーマ	意見	説明	課題			
目指す将来像	まちづくりの方向	街並みを大事にしたい	歩道が整備されるのはよいが、その際に樹木が撤去されてしまう			
		心地よいまち(このままでよい)	心地よさが大磯の選択理由	町内向け、町外向けに基準となる目標像が必要		
		街並みを活用したまちづくり	東京と大磯の2地域居住で大磯の良さを実感	資源が活用されていない		
			大磯への移住の動きは魅力的なので進めていく			
			様々な人がいれば交流が始まる			
		山道を活かしたまちづくり	山道が素敵なので、普通に行けるように整備して欲しい	高齢者と幼児(子育て中)が一緒に何か出来るとうい		
		人が来すぎないまちづくり	大阪、東京、鎌倉を経て大磯にきた			
			鎌倉のまちづくりは一貫性がない、週末身動き取れない			
			ほどよい交流がある、ほどよい高齢者がいる			
			ほどよい人の数だから景観が守られている	良さが人によって消されないようしたい		
将来の想定	町内に働けるところがあるまち	自然豊か		町民のための医療機関、交流スペースが欲しい		
		ほどよく近い都会、ほどよく田舎、海がある		コワーキングスペースが必要		
		賑わいがないことが魅力				
		人口は減る	どういう人に来てもらいたい	今の空気感はそのままで10年後になくなってしま		
			落ち着いた雰囲気、理解を持つ人に来てもらいたい	まちをどう広報していくか		
			9つの価値観を宣伝する(環境問題の雑誌、インターネット)	まちの歴史的背景を踏まえておく必要がある		
		広域的には便利	東海道線で東京から1本、駅から海にも山にも行ける	町内の移動には車が必要かも		
			ほどほどのお店、泊まれるところがあるとよい			
		実現方策	行政に期待すること	地域の資源をもっとよく知る	まちを知ることが大切	
				町の歴史を伝える	SNS(民間) 大磯まち大学(行政)	
近所の人と交流する	高齢者と幼児、ハロウィン			まちの各所にオープンスペースがあるとよい		
まちの人が楽しく生活する(できる)	交流、意見交換できるお休み処の場を設置					
面白い活動をサポートする	人は寄ってくる					
楽しい大磯らしさを発信する						
口コミで広げる						
町民の活動のサポート	個人スクール(ダンス・ギター・英語)を作りやすくサポート					
町民の交流	植木の手入れ(講習義務化)					
まちのコンセプトづくり	町民(+訪問者)が大磯を知り合うトレイルツアーをつくる					
まちづくりのコンセプト(スロー)	まちづくりのコンセプト(スロー)	防犯	全住民が話せるまち			
		利便性向上	ブランドの方向に沿った外への情報発信			
		自然環境の維持保全	人と車を分けた避難経路			
		調整区域の整備	バスのない地域に乗り合い自家用車を認める			
		資源の活用	駅から周遊できるように山道をつなげる			
		適正な開発	自転車、電動バイクでめぐる大磯			
			海、山、個人ではできない整備			
			かつての磯を取り戻す(返してほしい)			
			ヨットハーバーの予定が砂利船になってしまった			
			放置するのではなく、整備のあり方を検討する			
	現在を活かす方法、市街地に移す方向の両方がある					
	今ある眠っているものを目一杯使う					
	自然は残ったが不便、開発は必ずしも悪いことではない					
	残し方、活かし方を考えた開発					
	観光客のほどよい人数の受け入れ					
	自然を活かした街作り					
	先進的で落ち着いた町					
	住んでみようかな——大磯					
	誇りをもってまち褒めさせる					
	海と山とヒト オオイソ					
	小路(山道)のまち おおいそ					

2班

テーマ	意見	説明	課題	
目指す将来像	まちづくりの方向 (概念的)	10年後に住民参加が実現されているまち	地域自治会のような組織の充実 テーマごとに意識ある住民の集まりがある	その仕掛けをどう作るか
		住んでいる方にフォーカスしたまち	不便さには慣れてしまえば心地よい(生活が変わる) 観光(外者)に重視するのではなく住みやすさ(住民)重視 自然・歴史はどう活用するか 10年後、住民は何があったら(もの・ソフト等)便利か・嬉しいか ex.) O×カフェ、ケアハウス、映画館等 その中、行政・民間での重要度を加味して検討	
		自分達の今の困りごとではなく、100年後のあるべきまち	東洋経済調査によると、今、求められている上位5位は 「安心度」「利便度」「快適度」「富裕度」 ＝町民意識調査結果のトップも同じような項目が並んでいる ＝これは皆が一般的に求めているあれば便利なこと(much better) ＝私達の幸せ度、自分達のまちが目指すのは何かを考えるべき 今、設備の補充をしても10年後にどうなっているかわからない 今の不満を考えてはいけない＝もっと先の話!!! 受益者もそうでない人もトータルでハッピーを目指す 住民が行政に関与できる仕組みがある	
	まちづくりの方向 (具体的)	O住民参加・参画できるまち	せつかく企業して古民家を改築してカフェを始めても持続性がない 生産世代が増やすには… 生産世代が回るようなしくみ(お客様が潤うようなしくみ)	カフェが成り立つようするには… ボランティアばかりでは生活が成り立たない
		O経済がまわるまち	大企業への誘致や産業の立ち上げは無理なので町民と一緒に進める ITを駆使した産業(リモートオフィス)＝若い世代に住んでもらいたい	
		O生産世代が住めるまち	我々がまちづくりを考えるという意識醸成 小さなスケール＝顔の見える関係のコミュニケーション お寺周辺半径500mを対象として活動 ユニバーサルな施設 フリールーム(昔のお寺は皆が集えるコミュニケーションの場だった) 小さなコミュニティがたくさん集まった町のイメージ	地域に入るとは、自分から入らないと入れないので難しい ボランティアは99%地元で捧げないと成立しない
実現方策	自分達で出来ること	町民参加によるまちづくり	税金アップにより町の経済をまわすこと 高齢者にとってやさしいまち コミュニティバスの循環 空き家利用で集まる場がある 元気なお年寄りがお年寄りの支援等をする仕組みづくり 文化芸術活動のサークルの支援	世代を超えた方の参加の仕組みづくり
		東光院が行っていること(半径500mのコミュニケーションがよい!)	町が仕掛けて新規サークル活動を作る支援 空き家利用やボランティアのしくみ等 石神台(700世帯)にたまり場が3カ所あるとよい(現在1ヶ所) アイデア とっぴな一案 政府がすべての人に必要最低限の生活を保障する収入を無条件に支給する制度	
	行政に期待すること	あらゆる世代で、行政への町民参加・参画		
		住民ファースト		
		コミュニケーションができる場づくり(オープンな場)		
		地域通貨(例:藤野町)		
	ベーシックインカムを取り入れたまち			
	まちづくりのコンセプト(スローガン)	町民が主役 一人ひとりが主人公のまち		
病院・商店等、身近の生活利便性のあるまち				
高齢者と子育て世代にやさしいまち				
小さなコミュニティがたくさんあるまち(外から広く集める施設ではなく)				
町民の生活や文化活動を促進、支援するまちづくりを				
生産世代が地域で自立できる仕事のあるまち				
コミュニティバス等、外出が容易になる仕組みを作り健康増進するまちを				
財政的に豊かなまち				
住民がまちの施策にもっと関心をもてるまち				
大膽らしさのある(地域通貨の発行)				

テーマ	意見のまとめ	備考	
目指す将来像	文化政策を積極的に取り込み、大磯町をアピール		
	次世代を育成するために、教育に重点的に取り組む		
	IT技術に積極的に対応、特に町の運営もIT化に対応することが必要		
	安全なまちづくりが重要(防災面)		
	運動公園から県道大磯伊勢原線までのアクセス道路を整備し、災害時緊急輸送機能を確保しておくことを提案		
	NCR跡地を公共が取得し、防災公園(集団移転の候補地)の整備		
	その他の防災機能の強化対策(現大磯庁舎の移転、花水川河口付近の防潮堤強化、花水川の内水排除の強化のための仮設ポンプ場の設置)		
	明治天皇が視察した王城山を観光地として整備を検討		
	花いっぱい運動を推進し、観光拠点(庭園モデル・花類の販売)の育成		
	景観とまちづくりを連動させることが大切		
	街並み向上のため、電線共同溝事業の推進		
	広域都市計画圏としてのネットワークかのために、都市計画道路の検討		
	実現化 方策	行政組織の縦割りを脱却し、住民との協働がテーマ(行政と住民の役割分担の明確化)	
防災計画の見える化が重要で、レスポンスとアンサーが不明確)			
SDGs(エスディーゼーズ)積極的に取り入れ、特に子どもたちへの取り組みが重要			
観光の目玉は、明治邸園の実現であり、行政と町民が共同で運営することが大切			
テーマごとに具体的に活動しないと、動きが鈍いので、町民の動きを行政が支援する機動性が必要			
若者の団体とシニアの団体が共通のテーマで活動することが重要			
自分達 でできる こと		若者を惹きつける魅力づくりを、住民主体で実行	
		花を通し、世代間がコラボできる環境づくり	
		子ども食堂の拡充	
行政が できる こと		町内会や小学校の役員のなり手が少なく、若者や地域コミュニティの強化が必要	
		大磯の魅力向上のため景観保持は、行政主体で実施 大磯町が独自路線を出せないのなら、平塚市との合併が必要	
まちづくりの テーマ(コンセプト)		花と緑の魅力ある町並み:大磯	
		人が輝き自然が光る町	
	湘南市(合併が必要)の一角を担う未来に明るい町		
	動・植物との共生ができる大磯		

4班

テーマ	意見	説明等	
目指す将来像	S D G s に準じた持続する町大磯		
	大磯らしさの定義（大磯コード）	駅前広場のアンケートで7割が大磯らしさを求めているが曖昧	
	ユートピア コミュニティ みんなでつくる大磯		
	これまでのまちづくりをリセットし、令和の新たなまちづくり		
	教育に強い町→企業誘致増→定住増		
	※大企業はいらない・大磯のスケール感		
	※老若男女の誰も居心地の良いまちづくり		
	※暖かいまちづくり		
	実現方策を通じてN o 1を目指す		
	定住	教育 国際化 子育て シュタイナー教育 公立小中一貫校化・特区申請 統合した学舎のコンヴァージョン 仕事のしやすさ 企業誘致・サテライトオフィス 商業活性化・町全体を株式会社化	
	コミュニティ	町のキッチン シェアリングエコノミー 地産地消 自給自足 ※治山治水のまちづくり 環境に配慮したコミュニティ	
	景観	ゴミ捨てに対する住民の意識が低い 文化祭出品 小型太陽光発電機提案	
	環境・エコエネルギー	国際宇宙ステーションは1.00kwのソーラー電力 太陽光発電・1.37kw/m <sup>2</sup> を効率良く使う S D G s 太陽光発電普及	
	観光	リフレッシュ観光 シラスを飼育し名産品にする パン屋巡りランニング・店舗が減っている 民泊導入	
	健康	健康コマー্স 介護保険料が二宮町より高い 健康な高齢者を増やし医療費削減・生産人口増 健康寿命増 健康運動指導士の活用・13,000人 最適運動量の検証・普及 ナチュラルキラー細胞を増やす運動 ピンピンコロリ	
	実現方策【自分達でできること】	ゴミステーションの整備（自治会）	
		コミュニティでまちづくりを支える	
		シェアリングコミュニティの構築	例）駐車場・水産物・農産物・保育etc
		住民のモラルを高める	
	実現方策【行政ができること】	行政と住民が一丸となったまちづくり	
		道路整備（国道・県道拡幅等の要望）	
		空き店舗を活用した起業バックアップ 柔軟な行政運営	

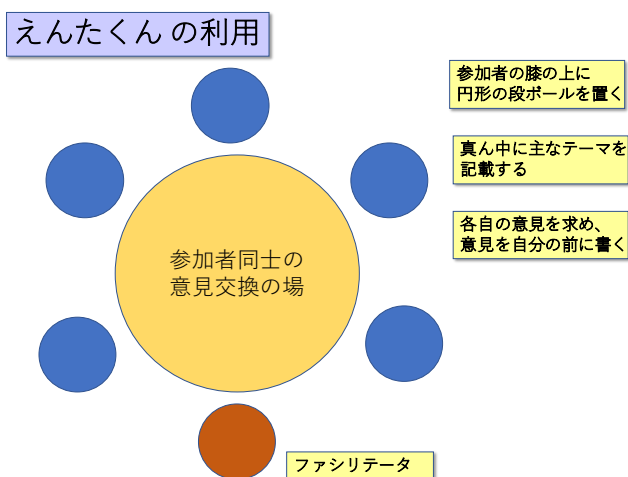
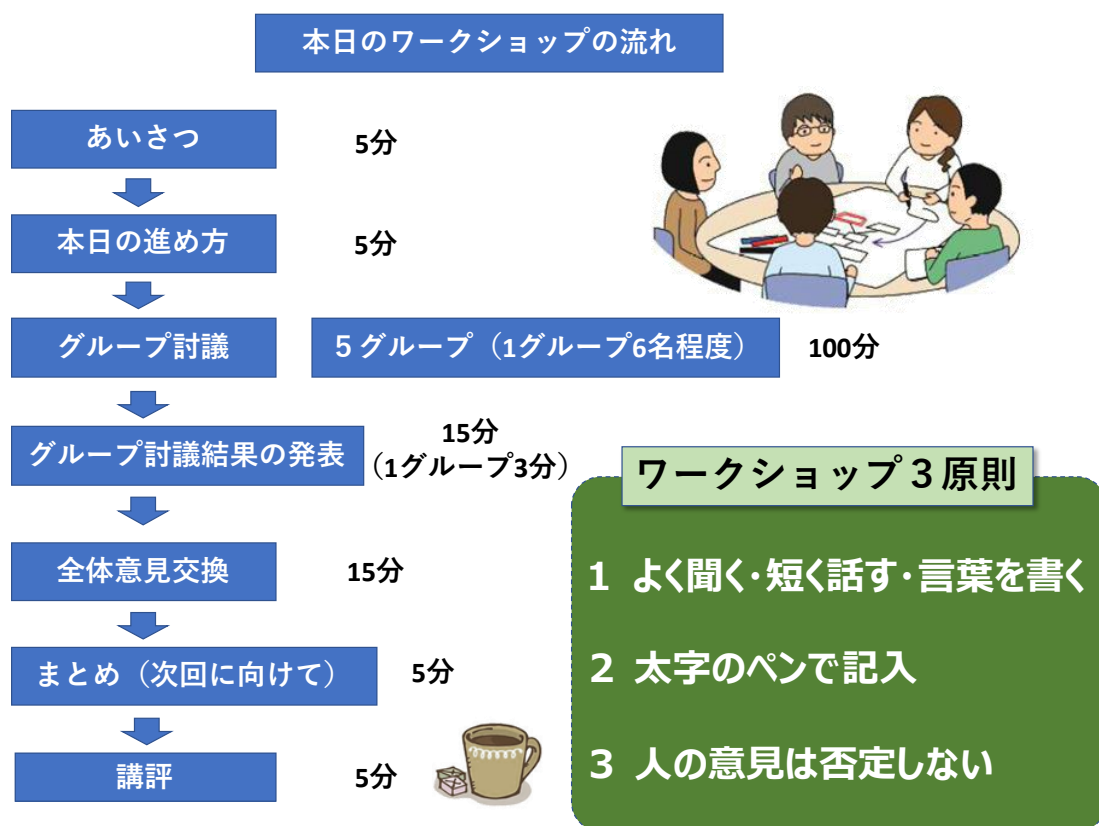
### 3) 地域別構想に向けたワークショップ（第3回）

#### (1) 地域別構想に向けたワークショップ（大磯地域・国府南地域）

##### ①実施概要

日 時 令和元年 11 月 30 日（土） 09:30～12:00  
 場 所 大磯町保健センター1 階  
 参加者数 19 名

##### ②第3回大磯地域・国府南地域ワークショップの流れ



### ③第3回大磯地域・国府南地域ワークショップ（グループ討議）

11月30日（土）、大磯町保健センター1階を会場に、総勢19名の大磯地域、国府南地域町民の皆さんのご参加により、大磯町まちづくり基本計画策定のための第3回ワークショップが開催されました。

最初に、事務局より全体構想に向けた第1回、第2回ワークショップの結果について、現行のまちづくり基本計画の地域別構想、地域別構想に向けた第3回のワークショップの進め方の説明が行われ、実際のワークショップへと入りました。

今回のワークショップでは、これまでのようにテーブルを用意せず、“えんたくん”というコミュニケーションツールを用いて実施しました。“えんたくん”の特徴は、膝を突き合わせて話し合うことで親密さが増し集中して話ができるというものです。ワークショップでは、5つのグループに分かれてそれぞれ自己紹介から始め、次に第3回のテーマのひとつである「地域の抱える克服すべき課題」について、“えんたくん”に直接記入をしながら話し合いました。

その後、記入した内容を踏まえ、各グループによる話し合いの結果を発表していただきました。

各グループの結果の概要は以下の通りです。

#### 大磯 A 地域

##### 地域の課題

「回覧板の回数が非常に多く週に2～3回来ることもあり、緊急なのかどうか分からないということで、回覧板や街角にある掲示板の利活用をもう少し効率的にできるとよい。

津波や震災、台風の情報の連携の仕方もうまく活用するような仕組みを作っていかなければいけない。

路地が多く、防災面ではうまく活用しなはいけない部分があるので、路地の良さも作っていかなければいけない。

30代～40代の方が活性化していくようなことを増やしていけば、ひとつの大磯の地域住民に対する世界観ができるのではないかと。

大磯には海があるので海をうまく活用する、この海に程よい人の集まり方があれば良いのではないかと。

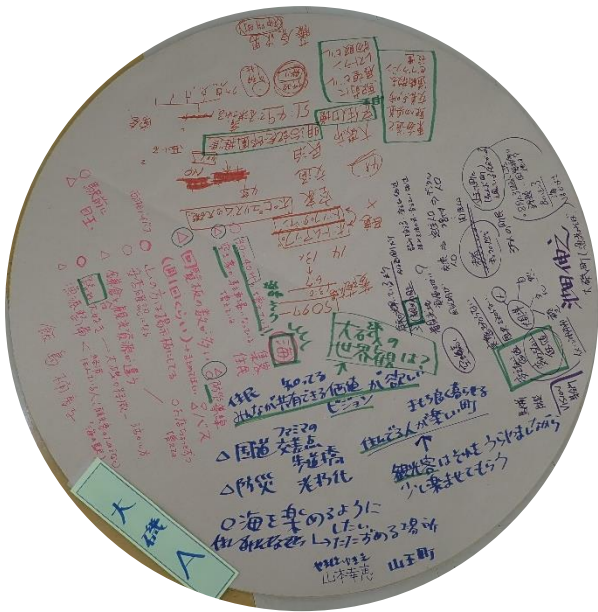
##### 「住んでいる人が楽しい町」

観光客や旅行者の方々がたくさん来て地域の住民の方がストレスを感じてしまうので、ひとつの基準を作ったほうが良いのではないかと。

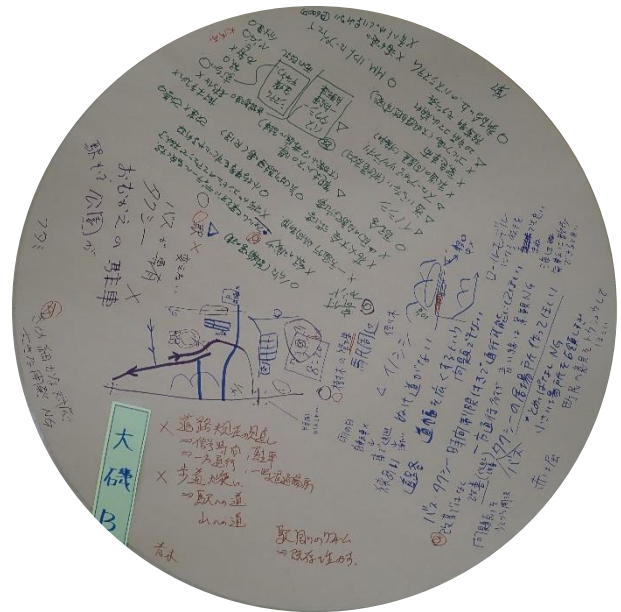
観光として目玉になるのは、大磯駅を降りてすぐ目の前に「ISOタワー」と言って、駅前に展望ビルであったり、レストランであったり、物販ビルであったり大磯らしい他の地域にはないものがあると面白いのではないかと。

まちの中にある死んでいる観光資源に新しい息吹を入れて、それが漁港の開発であったり、駅前開発に良い意味でつながっていき全体的な大磯の地域の方々も観光客が行く施設ということだけでなく地域の住民も行きやすいところになるとよい。

大磯 A 地域 “えんたくん”



大磯 B 地域 “えんたくん”



## 大磯 B 地域

### 改革より改善

駅前を抜本的に見直し何か新しいものを作るというのではなく、今あるものを有効的に使いましょうということが考え。

改革、新しいものをつくるのではなく、改善、よりよくしていく。

「掘る」今ある既存の物を壊さずに「ディテール」そのコンセプト、中心になる目的をちゃんと見直して行く。

### 道路整備

道路の交通規制の見直し、信号機の時間帯の見直し、一方通行の時間の制限等をいろいろやることにより、今の既存の部分崩さずに改善していくべき。

大磯には海があるので海をうまく活用する、この海に程よい人の集まり方があれば良いのではないか。

### 町の主導的管理、町民のお手伝い

緑など、管理されていない現況がけっこう見受けられるので、町が主導的に管理する、町ができないことは、我々町民に町が「こんなことをしてくれないか」と言ってくれることにより、我々町民の方が何かお手伝いしていきましょうということ。

町がやってくれないという一方的でなく、我々も一緒にやっていきましょうということもできると思っています。

## 高麗、東町地域

高麗と東町は、サラリーマン世代、子育て世代が増えてきていて、生活のスタイルが、従来の大磯に根を張って近くで農業や漁業をやる形ではなく、都心に通いにいく人が多い地域です。

その人達の住みにくさ

大磯の駅前には店じまいが早く、夜遅く帰ってきても店はやっていない。

ごみを出す日が決まっているので、その日に出張等で家にいないと1週間ごみを出せなくなってしまいます。ごみをいつでも出せるゴミステーションがあると女性にとってもありがたい。

宅配便の荷物の受け取りが平日の日中も外に出してしまうので、地域ごとに宅配ボックスを共同で置くなどがあるとよいと思います。

タクシーも夜少ない、朝は6時より前は大磯のタクシーが来てくれない、せめて始発にあわせて動いて欲しい。

道路の渋滞でバスが遅れるので、普段の生活にも支障がでています。信号機とバスを連動させて通すとか、小さいバスにして裏道を通すとか工夫もあったら良い。

東町の前に海があるが134号線が通っていて海がすぐ見えているのに行きにくい

花水川が高麗のあたりを流れているが、護岸を塗り固めてあるので川と親しむところもない

高麗の山では、最近、猪やハクビシンが出ています。管理をちゃんとして、日常的に人が山に入れば動物たちも来なくなると思っています。

## 石神台地域

人口減少と高齢化

開発から40年経ち、子ども達は外に出て残された当時の我々は高齢化が進み、人口減少問題と高齢化の問題が大磯の中でも一番進みかなり極端な数字になっていて、限界集落になりつつあり非常に危機感を持っています。

交流の場づくり

交流の場が少ないので、「公園」「場所づくり」「どのようなところに皆が集まれる場所をつくれればよいか」。

石神台だけでなく月京等周辺地域も含めて大きな学習ができるような場所、子ども達もお年寄りも集まって勉強もできる場所が必要。

石神台の周辺に空き家があるので、空き家を利用してコミュニティの場を作り、散歩しながらお茶が飲める場を作ったらよいのではないかな。

石神台には広い遊水池があり、死んでしまっているので平常時に上手く活用できないか。

山の方には、昭和電工の研究所候補地だった所があるが、そこを開発して活用できないか

海も歩けば10~20分でいけるので海も活用して海岸沿いを散策しながら、アオバトが飛んで来る所にテラスなど作ってもらおう等、皆が憩える場所をこれから考えていければよい。

交通

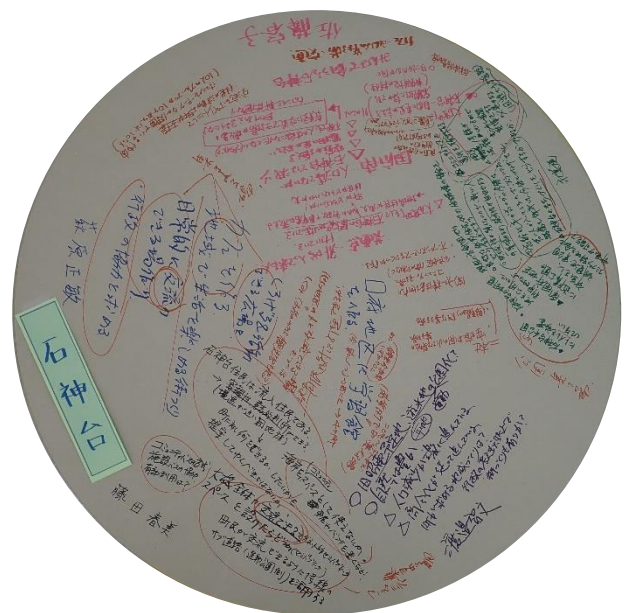
コミュニティバスで地域を細かく回るシステムが欲しい。今も地域によってはデマンドタクシー等もあるようですが、買物が不便な地域で、今後高齢者も増えるので、利用できる足がある環境も必要になると思います。



高麗、東町地域 “えんたくん”



石神台地域 “えんたくん”



国府本郷・国府新宿地域

本郷は新しく宅地開発され今のところ人口は増えている。一方、団地の人口は階段を登るのが大変になり人が少なくなっているという話もありました。

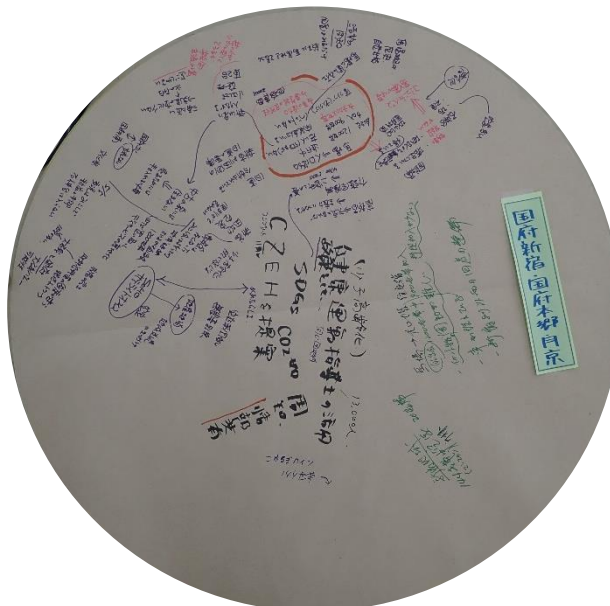
家が増えるが若い人をどのように地域につなげるのかが問題だと思います。地区の自治会に入るように勧めていますが、今は自治会に入る方は非常に少なくなってきました。地区としては青年会、子供会、老人会をなるべく強化して皆さんとコミュニティを取ろうとしています。

新しい方が増えていますが、実際、東京まで通勤しているので、そこは、地元で働いてもらえるように SOHO やサテライトオフィスも考えていけたら人も住んでくれるし、昼間もコミュニティーができるし、働く人達がお昼を食べる等、お店を作り賑わってもらう。そこで地元の食材を地産地消できる等すべてにプラスになる方向の話ができました。

今は人が増えていますが、石神台や南の方は人口が減っているところもあるかと思いますので、私達も何十年後には同じような心配もあるので、今のうちから皆さんの意見を聞いて対策をして何十年後にも問題なく住めるようにできればと思いました。

高齢化も進んでいくので、その人達をどうしていくか。いろいろなコミュニティーで運動をしてもらいなんとか元気にしていただきたい。

国府本郷・国府新宿地域 “えんたくん”



④第3回大磯地域・国府南地域ワークショップのまとめ

各班の主な論点

大磯 A 地域	「ほどほどの整備」の話
大磯 B 地域	「改革より改善」
高麗・東町地域	朝と夜を含めた「生活の利便性」
石神台地域	高齢化・人口減少を踏まえて「交流」を考えたい
国府本郷・国府新宿地域	増える人口をどう地域と結びつけるか

⑤第3回大磯地域・国府南地域ワークショップ地域別の詳細

大磯地域（大磯 A 地域、大磯 B 地域、高麗・東町地域）

検討テーマ	主要な意見	対応の方向・期待
大磯町のまちづくりの方向から見た大磯地域のまちづくりの目標	大磯町は移住してきた人が多く、将来とも住み続けたい町が目標	
	静かな町(落ち着いた)だから移住してきた	
	教育に力を入れている特徴は、今後とも大磯の売りである。	
	<b>お祭りを通しての地域コミュニティの形成</b>	今いる人による地域の再生が重要なテーマ
	地域にはお祭りがあり、心が一つになる	
	高麗3丁目(花水川の対岸)は人口は少ないが、祭りには参加	
	ただ、参加しない人もいる	
	<b>大磯の世界観</b>	
	→住民みんなが共有できる価値・ビジョンが欲しい	
	海を楽しめるようにしたい たたずめる場所	行き過ぎた観光でストレスにならないように基準があるとよい
	→主役は住民	大磯駅に観光の顔となるものがあるとよい
	住んでる人が気持ちよく暮らせる楽しい町、住民が輝いているまち	
	観光客はそれをうらやましながら少し楽しませてもらう	
	改革ではなくて改善(問題点を少しずつ改善)	IT関連の起業サテライトオフィス
	小さな事業にすぐに取り掛かるアクティブな行政	花卉植木直売所の整備とフラワーフェスティバルの開催
	きめ細かな対応で大きな開発はNG	北浜海岸を日本一美しい海水浴場に 花火大会の回数と収益を増やす 左義長を大磯一番のイベントに 大磯港を活かしたマリニリゾート(海の駅づくり) 健康増進センター(温泉・温浴等) 砂利港のインターチェンジ直近への移設 大磯小学校と大磯中学校の統廃合 統廃合跡地の再開発 東海道松並木のライトアップ 大磯駅山側の住宅地は高級住宅街として保全 主要な施設のネーミングライツ 町で稼げる力をつける
現状のよさ	路地が良い、大好き	
	大磯ならではの特徴である路地の活かし方を考える	
	防災からの視点も必要	
	30代、40代世代は増えているという印象	
	増やしたい	若者の世代とベテラン世代とを埋める何かがあるべき
	お店がちよとずつ増えている(カフェなど)	20代30代の若い人が暮らせるまちにしたい
	海	
左義長、漁港		
「ほどよさ」		
神社を中心としたまとまり		
風光明媚		

検討テーマ	主要な意見	対応の方向・期待
最近の気になっている 変化・困りごと	<b>大きな宅地(お屋敷)が分割されて分譲</b>	
	折角の大きな木が伐採されている	
	結果緑の減少を招いている	
	昔ながらの良い雰囲気が無くなる	
	旧住民と新住民とのコミュニティが出来難い	
	<b>生活スタイルが多様化</b>	
	人によって良いと思うことが異なる	
	世代間ギャップが当然出てくる	
	高齢者の声が大きく、シルバー型民主主義に陥りやすい	
	サラリーマンが増加し、働く人の実態が把握出来ていない	
	利便性の意味が変わってきている	
	<b>空き家が増加</b>	
	東町は人口は増えているが、空き家も立つ	例えば、サーファーに空き家を利用してもらおう (反対の人もある)
	<b>海岸の活用</b>	
	大磯の売りはきれいな海である	ゴミの山を早く片付ける
	サーファーが路上駐車している	
	<b>高麗・東町の位置特性</b>	
	町の東側に位置し、生活圏の一部は平塚に依存	
	日々の日用・食料品は平塚の大型スーパーへ行く	
	<b>回覧板の数、回数が多い</b>	
まとめて有効な情報発信をすべき		
山側の地域では掲示板を活用している		
安否確認の手段になっている		
<b>空き家が駐車場になっている(増えている印象)</b>	民泊としての活用 駐車場以外の有効活用	
<b>観光地といいながら資源がない?</b>		
鎌倉とは観光資源が違う		
実態を知らない 歴史を知らない		
過去の資源に頼った観光(ex. 菱蔭)になっている		
観光資源はたくさんあるが、生きていない		
明治記念庭園推進		
<b>街づくりへの意見を挙げても通らない、民意ではないといわれる</b>		
活性化のための意見を挙げても51.49で否決される		
ボトムアップ⇔トップダウン ポピュリズムの大磯		
<b>止まった町(死んだ町)と思っている住民がいる?</b>	定住人口の増加 交流人口→定住人口増やす→デジタル人口	
変わらない街でよいのか		
弱みを変える…変えない価値 強みを生かす…変えていく価値		
人・自然・文化・観光		
<b>イノシシの獣害対策</b>		
<b>緑が年々減っている(駅前のはらはコンビニの室外機で枯れた)</b>		
<b>海があるのに遠く感じる</b>		
道路(地区内道路)	<b>地区内道路が少なく・脆弱</b>	
	生活の密接に関わる地区内道路が整備されていない	
	山側の坂道が多く、幅員も狭い	
	鉄道を挟んで、南北を連絡する道路が少ない	
	<b>渋滞</b>	
	雨の日の7時~8時台は駅前が大渋滞	出口が2箇所なので抜け道が必要
	国道1号の信号が長すぎる	交通規制の見直し(信号・駐車・一方通行・待避場所)
	一方通行道路が多すぎる	
	花火大会の時も駅前は大渋滞	
	渋滞が予測される日は国道1号沿いに車を駐車している	
	<b>狭隘道路</b>	緊急車両の通行に支障がない道づくり
	狭隘道路も多い(拡幅だけの問題ではない)	
	逆に広い道はいらない(拡幅反対)	
	歩道が狭い(駅への道、山への道)	
	<b>私道でタクシーが行けない道がある</b>	
<b>遊歩道</b>	魚が棲む人工小川の流れる遊歩道	
<b>防災対策</b>	西湘バイパス高潮脆弱区間のトンネル化 西湘バイパス下の空間を活用	

検討テーマ	主要な意見	対応の方向・期待	
公共交通	<b>鉄道が地域分断要因</b>		
	<b>バスの運行形態</b> 高麗・東町は二宮方面からプリンス、大磯駅を経て来る！ このため、バスの定時運行が出来ていない		
	<b>タクシーの対応改善</b> タクシーの台数も不足しており、かつ早朝・深夜の運行が課題	相乗りタクシーがあると便利である	
	<b>交通</b> 国道ファミマの交差点歩道橋老朽化 バス、国道の混雑	東海道と駅への県道交差点の歩道橋撤去、ゼブラゾーン設置	
	<b>駅周辺・駅前広場</b> いずれも駅前に停めっぱなしはNG 以前は駅前にタクシーの無線事務所あり 駅前に自転車通行帯の青い線を引くのは景観的にNG 駅舎のデザインはレトロで良い(老朽化対策) 以前は駅裏への改札があったが閉鎖 利便性だけの駅前広場は大磯らしくない 緑は豊かだが、樹木の手入れが行き届いていない 石碑はいらない ベンチや分煙スペースは良い 駅周辺の倒木対策 駅周辺はあまり変えないでほしい 上層階にサ高住の導入	バス・タクシーは時間制限で通行させる 狭いスペースを効率良く使う 駅前のタクシー待ちを別の場所で 駐輪場の横のスペースを憩いの場(公園)にしてほしい 駅裏への改札復活 新百合丘の駅前広場のシステムを参考にしてほしい	
		フォルムを変えずにディテールを良くしていく 既存資源を活かした駅周りのリフォーム 駅前に大磯の顔となる商業ゾーン形成 地産地消のための大磯キッチン 山と海をつなぐロープウェイの整備 MM21のようなリフトやロープウェイの導入 サイクリングロードの拡張と観光カートレインの運行	
	都市施設	<b>海や川があるが親水機能が無く、水辺を活かす工夫</b> 直ぐ側に海があるが、遠回りを強いられる 花水川は治水機能だけで、親水性は無い	
		<b>ゴミ捨ての課題</b> ゴミ出しは、共稼ぎで不規則な生活リズムの人には課題である	ゴミステーションの設置が望まれる
<b>防災</b> 避難場所について再考(災害の内容、海側に逃げる気はしない)		動線を考える必要がある(国道、県道、路地含め) 情報の連携	
<b>駅前に目玉となるものがない</b> 大磯駅の顔となるもの、大磯の観光が一望できるもの		駅前に展望ビル(ISOタワー)、レストラン、物販ビルなど考える	
<b>アオバトをゆっくり観察できる場所がない</b>		花水公園の拡張と堤防を活かした花の河川公園整備 津波対策の多自然沖合人工島・人エラグーン整備 丘陵部へのキャンプ場整備 日本一のプランコなどの遊戯施設を設置	
		海や山の特性を活かし、散策コースを充実すると良い 特に、海側と山側を結ぶ散策コースが欲しい	
山林・農地	<b>散策コースの充実</b>		
	<b>山の緑の保全</b> 小鳥や鶯など鳥が多い 最近、イノシシやハクビシンも来る	山は手入れが必要である	
	<b>漁港整備</b> 経済発展の面と、住んでいる人のための面がある 観光客のためでなく、住んでいる人のための整備が望ましい	「海の駅」など	
	<b>ゴルフ場などの大規模な自然破壊は環境・防災上NG</b> 20年ほど前に高麗山が崩れたことがある(除草剤散布の影響?)	海辺を気軽に散歩できると良い 樹木の管理が行き届いた町	

国府南地域（石神台地域、国府本郷・国府新宿地域）

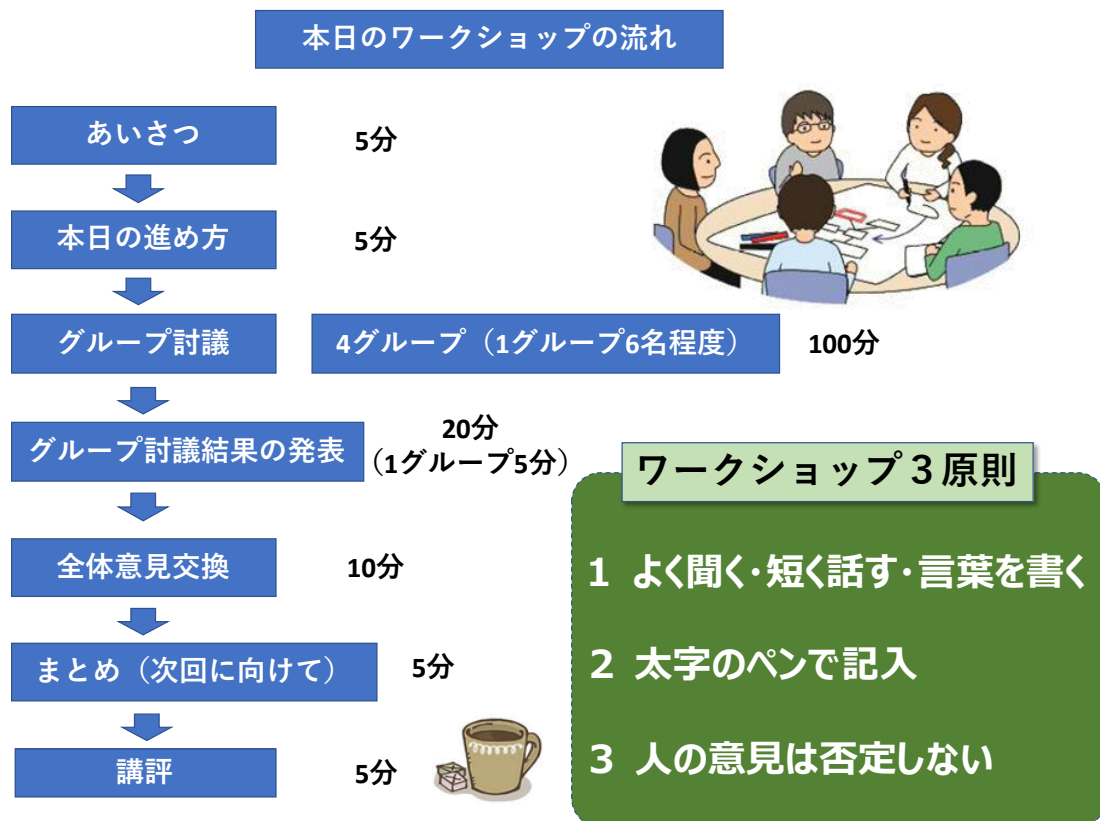
検討テーマ	主要な意見	対応の方向・期待	
大磯町のまちづくりの方向から見た国府南地区のまちづくりの目標	<b>大磯の新しい顔づくり</b> 大磯地域は敷居が高い 町議会議員の密度が違う 大磯地域は旧家が多い	国府地域は大磯バレーの可能性ある 空き家を活用してサテライトオフィスやSOHOにする コンプリートゼロエミッションハウス（CZEH）の提案 レストラン等の食事に地産地消の材料を使う （地域交流のきっかけになる）	
	<b>石神台のコンセプト「みんなで創ろう石神台」</b> <b>現在の方針図について（石神台の街づくりをどうするか）</b> 良好な低層住宅地の住環境の保全をどうするかである 高齢化率が高いが今後は若い人が入って来るので、環境を保守して今後につなげていく		
	<b>二本柱で集まる場の整備</b> ⇒空き家利用等の「小さな単位の集まる場」と駐車場のある「大きな単位の集まる場」が必要 くつろげる＆活動できる広場を カフェを作る	地域で生活を楽しめるまちづくり 日常的に交流のできる場づくり	
	<b>他地区の方と交流できる場を作る</b> 仕組みづくり（お茶がのめる・観光客も来る） 鎌倉今泉台「いずみサロン」のような空き家を利用した集いの場 商業的でなく子どもから大人まで集まれる場 行政の協力を求める	国府地区に学習館を作る（現在東に1つ⇒西にも⇒全部で4カ所）	
	<b>国府南の生活に満足している</b> 地域から元気をもらっている 城山公園、医療機関もある		
	<b>馬場地区は開発が進み人口が増加している</b> 住宅の価格が安い 55歳までの若い人が多い		
	<b>馬場公園の存在</b> イベントの開催が多い		
	<b>馬場地区の歴史がある</b> 地区の歴史を自費出版、全世帯に配布		
	<b>海に近い</b> 水の存在によって気温の変化が少ない 過ごしやすい		
	<b>家庭菜園が多い</b> 無農薬野菜		
地域のよいところ	<b>地域との交流がある</b> みこしを通じて新宿と本郷の交流がある 石神台はみこしがないので入っていない 国府南と国府北の交流は全くない	20代30代の若い人が暮らせるまちにしたい	
	<b>石神台住民は流入住民であるため客観性、意思的判断ができる</b> 地域性が強く新しい人の集団のため発言性が自由である 外から来て働きに出ている人という共通点がある 生活レベルが同じで境遇が近い団地族 他の町民に対して提案できるか 町に対して何をしたいか、何ができるか提案してゆくべき 町が求める地域づくり（行政の考え方を知った上でまちづくりも有りか）		
	<b>自治会未加入世帯が多い</b> 1200世帯のうち自治会加入は900世帯 イベント等の活動の情報周知・共有が必要 回覧板は見るだけ	若い人がいかに楽しくできるか 祭りを通じた地域の交流 安全の確保 交流の場整備	
	<b>国府新宿は少子高齢化を肌で感じる</b> 団地は空き家が多い 便利でも売れない 青年会はなくなった みこし会は残っている 地域をまとめているのは自治会		
	<b>高齢化への対応</b> 高齢者が元気になれば生産力につながる 介護保険料の二宮町との差（大磯5400円、二宮4700円）	健康運動指導士の活用を政策化する	
	<b>大磯町として石神台の開発が止まっている</b> 人口減・高齢化が激しく進んでいる、空き家が増える、買物の足が不便 不便でも人の世話になりたくない・迷惑かけたくない（プライド） 気軽に交流できる場が増えると助けあえるようになる（向こう三軒両隣） 10人のグループが10カ所できれば100人が健康になる（ポールウォーキング等、健康で仲間）	交流をポイントとして住民の活動を町が支援	
	<b>車の増加</b> 通学路の危険性増加		
	<b>大磯全体が交流できるマグNET的のセミパブリック</b>	町民が交流できるように1号線のサブ道路（運動公園側）を活用する	
	公共交通	<b>移動の手段がない</b> 石神台は坂が多く不便 高齢化の進行	
		<b>コミュニティバスの方式</b> ⇒国道1号線が混雑しているので、もう少し道路整備をする必要がある（回避できる道路） 施設バスの協力・有効利用は？	コミュニティバスの運行を検討する
<b>自然は豊か（平地もある）</b> <b>石神台の4つある公園にトイレを設置してほしい</b> 調整池、東公園、ゴミプラ跡地を含めて南国府地区に近隣公園を計画できないか 海岸とコミュニティスペースを使えないか		旧昭和電工跡地、遊水池の運動公園化 東屋やベンチを置くなど	
都市施設			

## (2) 地域別構想に向けたワークショップ（小磯地域・国府北地域）

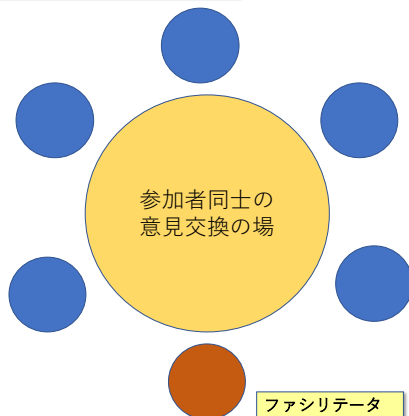
### ①実施概要

日 時 令和元年 11 月 30 日（土） 13:00～15:30  
 場 所 大磯町保健センター1 階  
 参加者数 16 名

### ②第 3 回小磯地域・国府北地域ワークショップの流れ



### えんたくんの利用



- 参加者の膝の上に円形の段ボールを置く
- 真ん中に主なテーマを記載する
- 各自の意見を求め、意見を自分の前に書く

### えんたくんによる討議風景



### ③第3回小磯地域・国府北地域ワークショップ（グループ討議）

11月30日（土）、大磯町保健センター1階を会場に、総勢16名の小磯地域、国府北地域町民の皆さんのご参加により、大磯町まちづくり基本計画策定のための第3回ワークショップが開催されました。

最初に、事務局より全体構想に向けた第1回、第2回ワークショップの結果について、現行のまちづくり基本計画の地域別構想、地域別構想に向けた第3回のワークショップの進め方の説明が行われ、実際のワークショップへと入りました。

今回のワークショップでは、これまでのようにテーブルを用意せず、“えんたくん”というコミュニケーションツールを用いて実施しました。“えんたくん”の特徴は、膝を突き合わせて話し合うことで親密さが増し集中して話ができるというものです。ワークショップでは、4つのグループに分かれてそれぞれ自己紹介から始め、次に第3回のテーマのひとつである「地域の抱える克服すべき課題」について、“えんたくん”に直接記入をしながら話し合いました。

その後、記入した内容を踏まえ、各グループによる話し合いの結果を発表していただきました。各グループの結果の概要は以下の通りです。

#### 西小磯地域

##### 西小磯のテーマ

##### 「自然と人との共生」「観光と一般の人の生活のバランス」

里山の山林やみかん畑が荒れて鹿や猪が出る等獣害が大きな問題

解決に向けて子どもや関心がある人が入って整備をするようなことができる仕組みが必要  
ボランティアで行っている里山整備に引きこもりの人たちが来られるようになるとうよい  
散策路をうまくつなげ、健康のためにも住民が気軽に山には入れるようにする

##### 「交通手段」

山側の交通手段の課題を解決して子どもの安全を守るという仕組みが必要  
自演者を活用できるようにする

##### 「ごみの収集」

戸別収集による高齢化への対応

#### 東小磯地域

##### 西小磯のテーマ

##### 「狭隘道路」

一方通行等で子どもの通学の安全を図っても、夜は両側通行など複雑な道路状況が問題

##### 「環境を守る分譲」

相続で分譲され環境的な資産がなくなるので、環境を守る分譲の考え方をして欲しい  
環境を守り価値を残して行くことを考えてくれる不動産屋を私達の中から作ればよい

##### 「空き家対策」

空き家になる前の対応が必要

##### 「大磯の魅力活用」

文化・芸術・教育等、今持っているものとして高め、それを魅力として磨いていくのが良い

## 生沢・寺沢地域

生沢の将来のまちづくりイメージ

若い人が常にたくさんいるイメージ

各地域の人が集まるお祭りを大事にしているイメージ

将来ゆっくり長く暮らせるまち

あえて開発しなくても現状の中でどう暮らしていくか

道路事情の改善が必要

「側道が整備されていない」「道路面の整備」「防犯灯が少ない」「新幹線ガード下や大磯学園前カーブが危険」

公共交通機関の改善

「バスの本数を増やしてほしい」「経路を考えて欲しい」「バスだけでなく、次の交通手段としてタクシーの利用も検討したい」

都市施設の整備

平坦な所に大きな公園、子ども達の遊具、憩いの場として銭湯等、民間に声掛けして長く住めるためのまちづくりの施設があってもよい

公民館が古くなっているので公民館の改修が必要

二宮にあるようなラディアンのような施設があってもよい

山林と農地の荒廃防止

「土地を人に貸してみる」「子どもたちのためにキャンプ場を作る」「子ども達が遊べる場所を山林、農地を活用して作れないか」

## 虫窪・黒岩・西久保地域

緑の番人ではない

地域は広い土地と緑の保全に費用がかかり過ぎている

蓋がないU字坑は、台風が来ると土で埋まってしまうが、町の人に電話して「埋まってしまったから掘って」ということが普通にできればよいが、自分でやってしまうのでこれが大変である。

緑の保全ではなく「もっと楽しくしよう」

木こりが趣味の方がいて木こりのような仕事が楽しみで来ている

虫窪で、山を使ってちょっとした賑わいをやろうと里山を作るプランがある

10年先には山の家があってもよいのではないか

事業化して儲かることは非常に楽しいことで儲ければお年寄りの背中も伸びます

ジビエでもやりかたによっては大きなものになるはず

町に何か頼むまえに、儲かる仕組みを考えた方が楽しいのではないか

緑やハイキングとか、町の人が楽しんできてもらうのにいろいろなアイデアもできている

緑を味わうためにはコンクリートが必要

舗装された道路（コンクリート）があれば緑の保全ができるし緑を味わうこともできる

みずばらしいトイレを何とかして欲しい

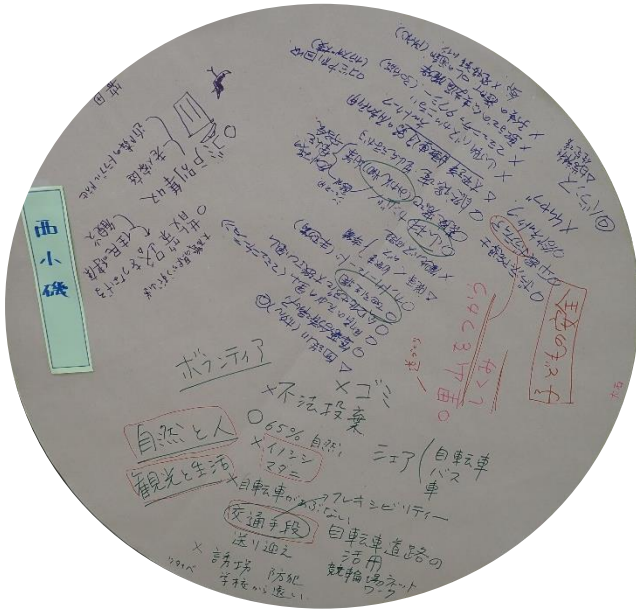
交通の問題

住民参加型でマイクロバスを運行し、住民参加でドライブピングできるようにする



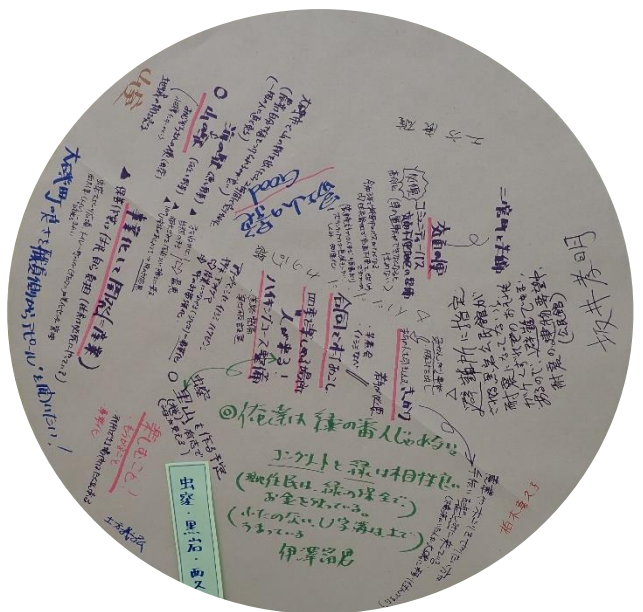
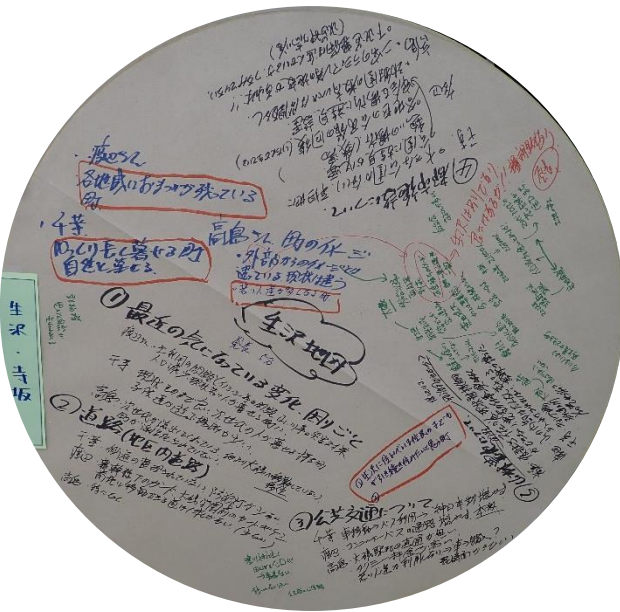
西小磯地域 “えんたくん”

東小磯 “えんたくん”



生沢・寺沢地域 “えんたくん”

虫窪・黒岩・西久保地域 “えんたくん”



④第3回小磯地域・国府北地域ワークショップのまとめ

各班の主な論点

西小磯地域

自然と人との共生

東小磯地域

環境を守り価値を残していく開発

生沢・寺沢地域

開発しなくても現状の中でどう暮らしていくか

虫窪・黒岩・西久保地域

緑の保全ではなく「もっと楽しくしよう」国府本郷・国府新宿地域  
増える人口をどう地域と結びつけるか

⑤第3回小磯地域・国府北地域ワークショップ地域別の詳細

小磯地域（東小磯、西小磯地域）

検討テーマ	主要な意見	対応の方向・期待
大磯町のまちづくりの方向から見た小磯地域のまちづくりの目標	まちづくりの目標として、“文化・芸術・教育”が似合う大磯町 体験学習など、教育に力を入れ来た伝統がある 文化・芸術も大磯の売りである	
	人と自然のバランスが大切 観光と生活のバランスも重要	65%の自然的土地利用を活かす
	ボランティアによる助け合いのまちづくり(ボランティア休暇) 子どもの安全性の確保	
	里山を使う仕組みづくり 町民のための里山(コミュニケーションツール)	公園化せずに大磯らしい里山を残す
地域の良いところ	血洗川のホテル	
最近の気になっている変化・困りごと	<b>住宅問題</b> 昔ながらのお屋敷が相続等で5~6戸の小規模住宅地となる 場合によっては、マンションになる。(価格によって) このため、立派な大木が無くなり、緑が減少している	
	<b>地域コミュニティの問題</b> 地域コミュニティは重要だけど、段々と薄れてきている マンションや中古住宅問題になると周辺が反対する	
	<b>空き家の問題</b> 空き家は増えているし、今後とも加速する 本来なら、空き家になる前の情報を収集し、対策を練ることが重要 大磯は家賃が高く市場からは、医者や学習塾等が立地できる 関西にヒアリングした「枚方信用金庫」地域の見回りと兼ねて工夫	大磯町も是非地元信用金庫を上手に活用したい
	地域の活力が向上するような仕組みが必要である	行政に出来ないことを、民間・地域が頑張ることが重要である
	若い人でも大磯に暮らせる環境ができる	
	山林へのゴミの不法投棄が目立つ イノシシの被害、害虫のマダニを連れてくる 誘拐の危険性 学校までの低学年の一人歩き(登校班の廃止)	
	ゴミ問題による近隣トラブル	個別回収の導入
	<b>道路機能が弱い</b> 東小磯緑地、三嶽神社、大磯小周辺は、複雑な交通規制 時間帯により一方通行が変わり、また通学路で交通止(7~9時) 交通標識も見え悪い場所にある 地元住民でも間違えることがあり、まして他地域の人は混乱する	20代30代の若い人が暮らせるまちにしたい
	自転車がない 町内の散策路ネットワーク ⇒住民の健康・観光ルート	太平洋自転車道路の活用 里山にアクセスする道づくり カントリーロードの整備促進
	<b>地域交通対策の必要</b> 道路事情が悪い上に、近年交通量が増加している 山側から国道1号に抜ける道路として利用している 鉄道と地形条件で地域交通を処理できていない	
	<b>脱車社会に向けた準備</b> 自転車やバス利用の促進 <b>駅までの公共交通の確保</b> コミュニティタクシーも申請してから30分以上掛かる 山側エリアはバスの本数が少ない	送り迎えなど交通手段のフレキシビリティ 自転車・バス・車などのシェアリング
都市施設	集落の合併浄化槽の徹底による水質改善	
山林・農地	<b>担い手不足</b> 高齢化による地引網の担い手不足 山林の間伐 荒廃農地(みかん畑)対策	ボランティア

国府北地域（生沢、寺坂、虫窪、黒岩、西久保）

検討テーマ	主要な意見	対応の方向・期待
大磯町のまちづくりの方向から見た国府北地域のまちづくりの目標	<b>生沢は一般的な大磯のイメージとは異なる</b> 大磯は明治以降の政財界の人の別荘 台町～東小磯の限られた範囲のお金持ちのイメージ 大磯と国府は混じり合っていない	
	<b>ゆつくりと長く暮らせるまち</b> 自然と暮らせる	現状のままでよい
	<b>生沢に住んでいる住民の子どもが引き続き住みたいと思うまち</b> 今いる人による再生産ができるまち 各地域にお祭りが残っているまち	
	<b>若い人達が多くなるまち</b> 外から見た大磯のイメージとは違っている	
	<b>俺たちは緑の番人じゃない</b> コンクリートと緑は相性が良い 現地住民は緑の保全でお金を使っている ふたのないU字溝は土で埋まっている まち寝かせ、自然のままは最悪 粗大ごみを国府北に捨てる トイレのU字溝が溢れている(町の対応悪い)	大磯町の良さを職員側からアピールを聞きたい
地区の良いところ	<b>富士山の景色(Good)</b>	
最近の気になっている変化・困りごと	<b>土地利用の問題</b> イノシシ等の獣害 山・川等の災害対策	
	<b>生沢は調整区域</b> 分家でしか家が建てられない 農業では食べていけない→サラリーマン化	市街化編入の意向(とくに地権者) 繰引き見直し
	<b>荒地・空き家が拡大</b> かつては専業農家 今は跡継ぎがいない 空き家になる	
	<b>人口減少が進んでいる</b> 次世代が流出ししまっている 町が活性化されていない	子ども達が遊ぶ場所が欲しい
	<b>2022年生産緑地法の期限がくる</b> 宅地開発が進む 人口減少を食い止める	20代30代の若い人が暮らせるまちにしたい 次世代の人が暮らせるようなまち 他地域から大磯に移住してほしい
	<b>住民参加で交通不便を解消できないか</b> 令和3年で神奈中のバスがなくなる 普通免許で10人まで乗せられる、順番制 ボランティアでは長続きしない	乗り合いタクシーの仕組み、制度化
道路(地区内道路)	<b>側道が整備されていない</b> 新幹線下のガード、大磯学園前のカーブが危険 <b>南北に移動できる道が少ない(1本しかない)</b> <b>防犯灯が少ない</b>	
公共交通	<b>バスの便が悪い</b> 高齢化⇒車の移動からバスの利用に変化	神奈中の本数の増加 コミュニティバスの拡大
	<b>大磯駅までの直通バスがない</b> タクシーは料金が高い 若い人が利用しない 車の購入は経済的に厳しい	
	<b>交通が不便</b> 交通不便地区の整備 車の運転が出来なくなると住めない 高齢化が進んでいるので必須	コミュニティバスの整備 二宮町と協働
都市施設	<b>憩いの場が少ない</b> 大きな公園がない 公園(安全な場所)に遊具が必要 銭湯のような憩いの場があるとよい	田んぼを公園化して集客している例(寒川神社近く)
	<b>公民館の老朽化</b> 各地区の公民館の回復	
	<b>下水道につなげない</b> 整備は進んでいるがつなげない(水道料が高くなるため)	
	<b>避難所の問題</b> 避難所に指定される黒岩公民館が耐震になっていない 崖崩れの恐れもあるので避難できない	耐震の建物(公民館)要望中
	<b>トイレが汚い</b> 虫窪スポーツ広場のトイレが汚い=美化センター管理 西久保のトイレはきれい(12月完成)	トイレ、ハイキングコースの整備(道路整備・案内板設置)

検討テーマ	主要な意見	対応の方向・期待
山林・農地	<b>山林の現状維持ができない</b>	キャンプ場など子ども達のために使えないか
	跡継ぎ不在のため、現状維持(活用)ができない	
	若い人は農家の仕事に興味がない	
	<b>山の荒廃化(豊かな自然が失われている)</b>	
	山の内部はだんだん荒れてきている	
	手入れがされない	
	獣害が増えた	
	<b>里山をつくる予定(虫窪)</b>	
	有志で	
	桜	
	海が見える	
	<b>イノシシ・シカの問題</b>	
	アナグマ、シカ、イノシシ、ハクビシン、キツネ、アライグマ	
	産業につなげる(ジビエ)=産業化	町の対策強化
	<b>事業化して開発(=産業)</b>	
	保全作業は住民自ら負担(住民は必死にやっている)	
	<b>村おこし</b>	
	四季を楽しめる場所には人が来る	海の駅(魚と野菜)←→山の駅(ジビエと野菜)
	ミカン狩り事業(豚汁の提供)→まちの人を引き込むきっかけ	
	農業や木こりをやりたい方は手伝いを楽しみに来ている	
	横浜にいた人が大磯に移り住んできた	
	芋煮会、イノシシ鍋	
	合同で村おこし→若手が必要	
	大磯市で山の物を出したら2時間で売り切れた	
農業は自分で値をつけられるのがよい		
一般の人に直で売る		
地域の物売る→お地藏さんの横(虫窪)、小田厚インターの所		
利用できる場所はたくさんある		
儲かること		
楽しむこと		

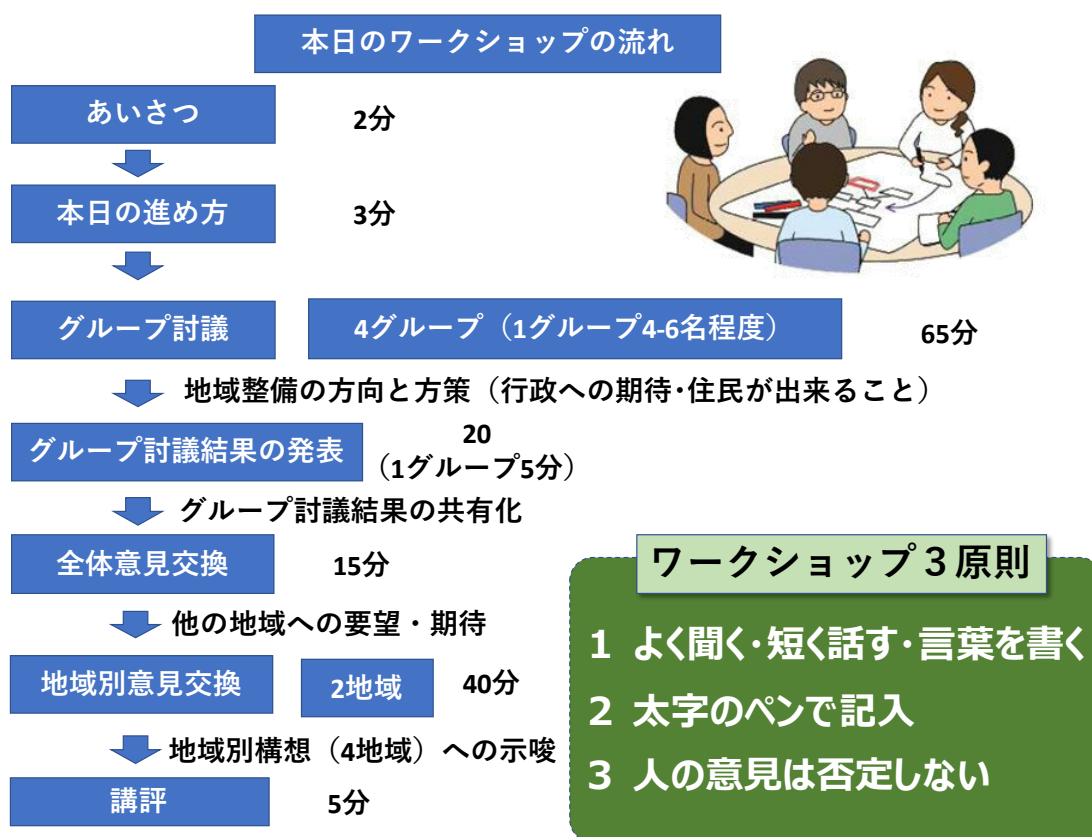
## 4) 地域別構想に向けたワークショップ（第4回）

### (1) 地域別構想に向けたワークショップ（大磯地域・国府南地域）

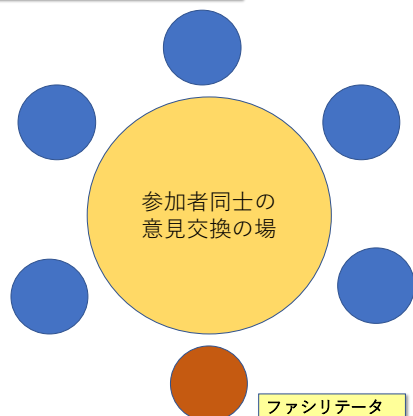
#### ①実施概要

日 時 令和元年 12月 21日（土） 09:30～12:00  
 場 所 大磯町保健センター2 階研修室  
 参加者数 17名

#### ②第4回大磯地域・国府南地域ワークショップの流れ



#### えんたくんの利用



参加者の膝の上に円形の段ボールを置く

真ん中に主なテーマを記載する

各自の意見を求め、意見を自分の前に書く

#### えんたくんによる討議風景



### ③第4回大磯地域・国府南地域ワークショップ（グループ討議）

12月21日（土）、大磯町保健センター2階研修室を会場に、総勢17名の大磯地域、国府南地域町民の皆さんのご参加により、大磯町まちづくり基本計画策定のための第4回ワークショップが開催されました。

最初に、事務局よりこれまでのワークショップの経過について説明が行われ、4つのグループに分かれて、第4回のテーマである「大磯町のまちづくりからみた地域整備の方向と方策」について、“えんたくん”に直接記入をしながら話し合いました

各グループの結果の概要は以下の通りです。

#### 大磯地域

駅前の道路事情--大規模の開発を望んでいるわけではない

駅前が大変混雑してしまうのは北口がないから。

大磯小学校の一本しかないガード下をくぐる道を通ろうとするので渋滞が発生します。

見た目は変えず、例えばタクシーの待っている台数を10台から5台にして5台は別の所で待っていてもらう。

大きいバスを長々と停泊させずに待機所を作る程度のレイアウトの変更をするのがよいのではないか。

大磯町はお金がないので、ゴルフカートやベロタクシー、自転車等は取り入れやすいのではないか。

フィードバックの場が欲しい

ワークショップで解決する話でもないのに、町議会議員と町長を交えた場で意見を聞いてもらう場があるとよいと思います。

住民ファーストでこのような話し合いの場があることも知らない方がたくさんいるので、話し合いの場をまた作っていただきたい。

海外の事例を参考にする

海外の田舎町で大磯町に地形が似ているところはどのように地形を活かして観光につなげているのか。

町を美しくしつつ住民も快適に暮らしている町はどのような町なのか、海外を参考にしてみたらよいのではないか。

## 高麗、東町地域

### 地域通貨「いそペイ」

自治会に入っていると自然災害以外にもこのようなことができます、このような可能性が広がるといふ提案の啓発活動をお願いしたい。

まちづくりに労力、エネルギーをかけられた方に対して地域通貨「いそペイ」を発行して、住民税の支払いを「いそペイ」で払うという循環の仕方から始めてはいかがでしょう。

「自分はこれが得意だからこれやります」「自分達ならこれ力になれます」と手を挙げるボランティアの方達にも「いそペイ」でお支払いするような仕組み。

### 強制力のある条例整備

「美しいまちづくり」「住みよいまちづくり」でいうと、条例のような強制力のあるものがあつた方が良いのではないかな。

### 未来が見えにくい第百代総理大臣プロジェクト

役所は現場の仕事に翻弄され10年先が見えていなかったり、企画をしたり、夢をもってもらふ啓発活動をする事にエネルギーを注げないことが、町の未来が私達にとって見えづらいところ。

### 第百代総理大臣プロジェクト

第100代総理大臣は大磯からというような夢をみれるスローガンを掲げ、お子さんに対して、歴史・文化を伝える会等を開くと良い。

ノーベル賞受賞者や著名な先生方から、子ども達に対して同じ大磯町民としてメッセージを伝え、世界レベルの知識、知恵を身近に感じる教育制度を作つたら面白い。

大磯の公立小中学校で過ごさせて世界に羽ばたいてもらふ等、教育がしっかりしているという大磯のブランディングにしていくと少子化対策にもなります。

## 石神台地域

### 交流の場をつくるべき

東の高麗の近くに一箇所しかない学習館を西の地区にも作るべき。

空き家を活用して、石神台も含めて西地区にたくさんのサテライト的な集まれる場所を作る。

サテライトの空き家を利用するようなものは、行政が支援しながら住民主体でおこなつたらどうか。

人が行き来するのに拠点を回る巡回バスが必要になるので、免許を返上してお年寄りも気軽に出行けるような手段も提供したらどうか。

### スローガンを変える

現在のスローガンは、環境のことを言っているだけで具体的にどのような町にしたいかは無い。

「皆が生き生きと住める」「生活を楽しめる」、自然の中でそのような生活が実現できるような、そこで人が住んで生活が成り立つ町を目指すというスローガンに変えていくべき。

町の目標は、町の人達自身の目線で、町の人が住めるところと持っていくべき。



## 国府本郷・国府新宿地域

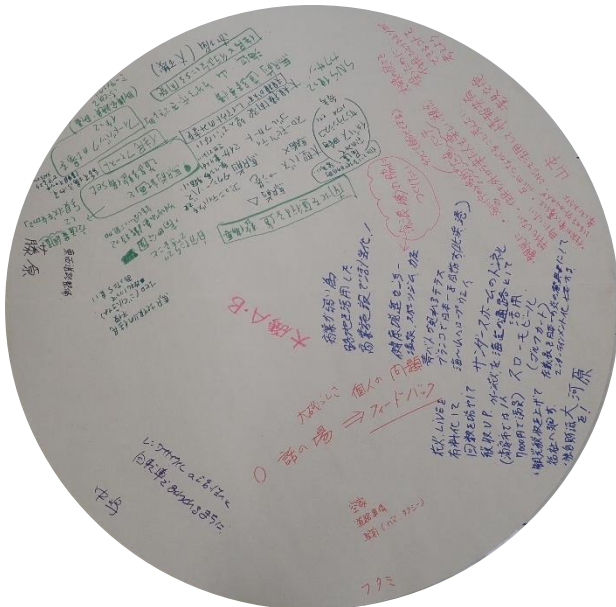
話し合う場作りが欲しい、機会がほしい

地域内でファシリテーション的な話ができるような方、窓口的なものがあると良い。  
きっかけづくりができる窓口的な人なのか、本当に窓口なのか役割としてあったら良い。  
町として、ひとつのテーマに有志が集まれる場作り。

町政だけに頼るのが難しい現実

人がつながることで持続的な世の中を自分たちが住む町を自分達で考えて動くことが大事。  
自分達が動いた中でどれだけ町に協力を求められるかを考える中で、町がミッション的にどのような方向に向かっていくのか指針を作っていただくことが非常に重要になります  
人口3万人の町というコンパクトさを活かして、エネルギーや廃棄物等、持続可能性のあるやり方、生活の仕方を見せることができるひとつの形というのがやりやすいだろうと思います

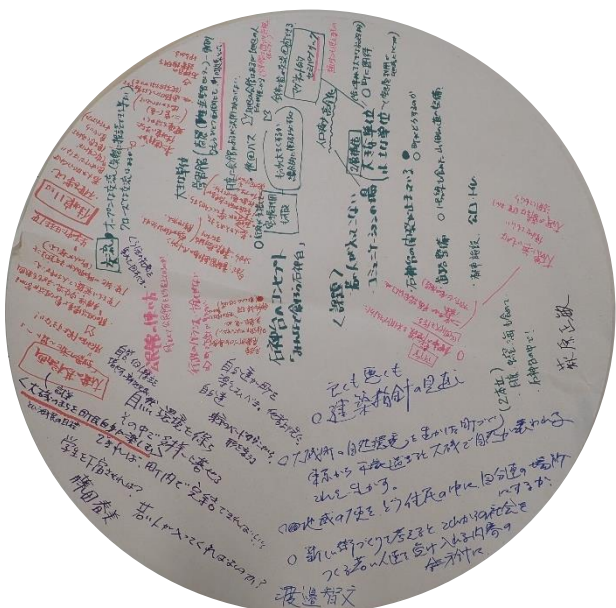
### 大磯地域 “えんたくん”



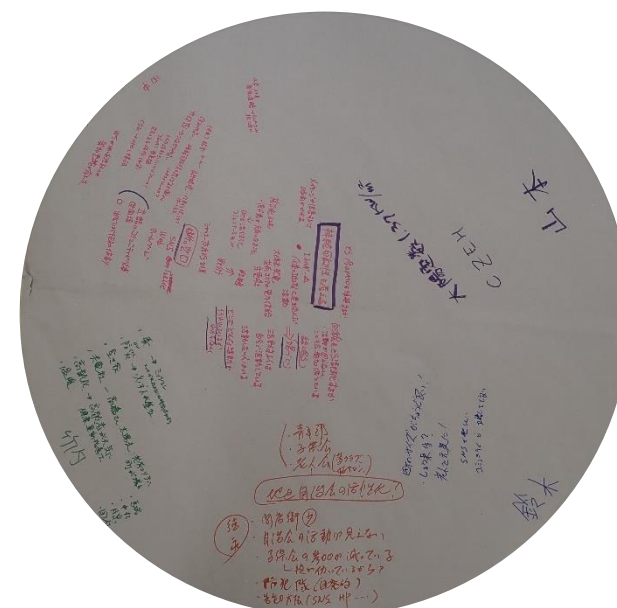
### 高麗、東町地域 “えんたくん”



### 石神台地域 “えんたくん”



### 国府本郷・国府新宿地域 “えんたくん”

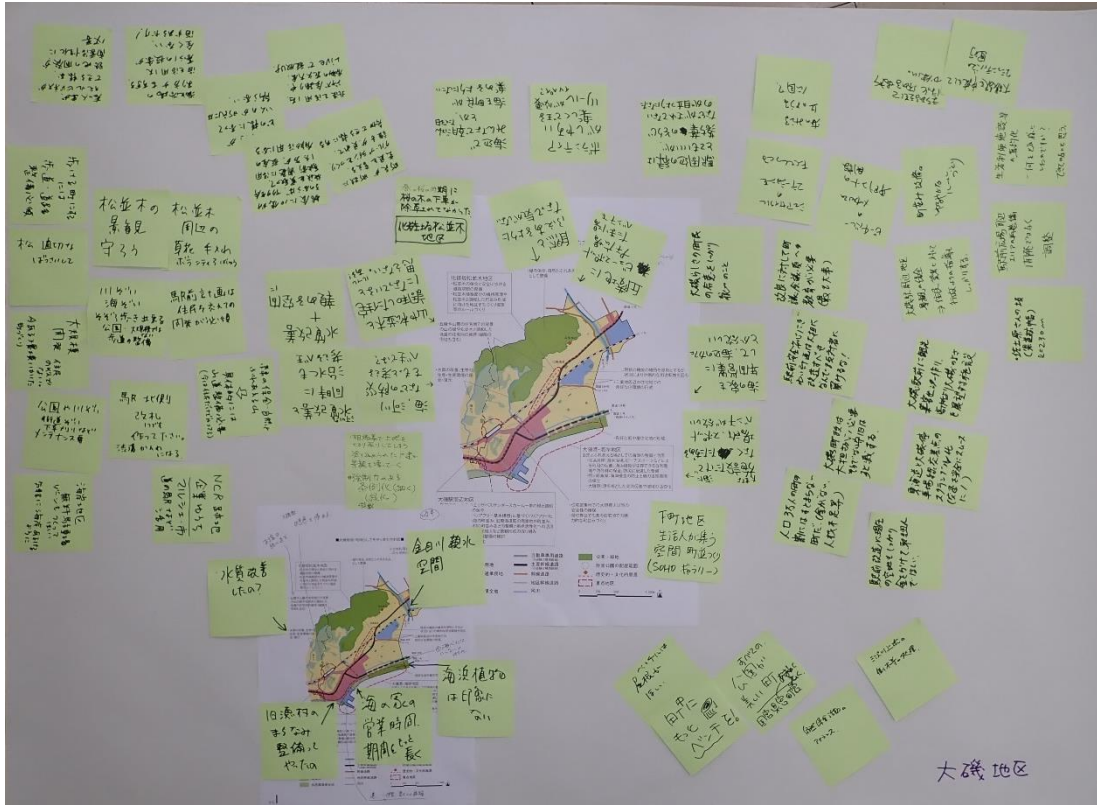




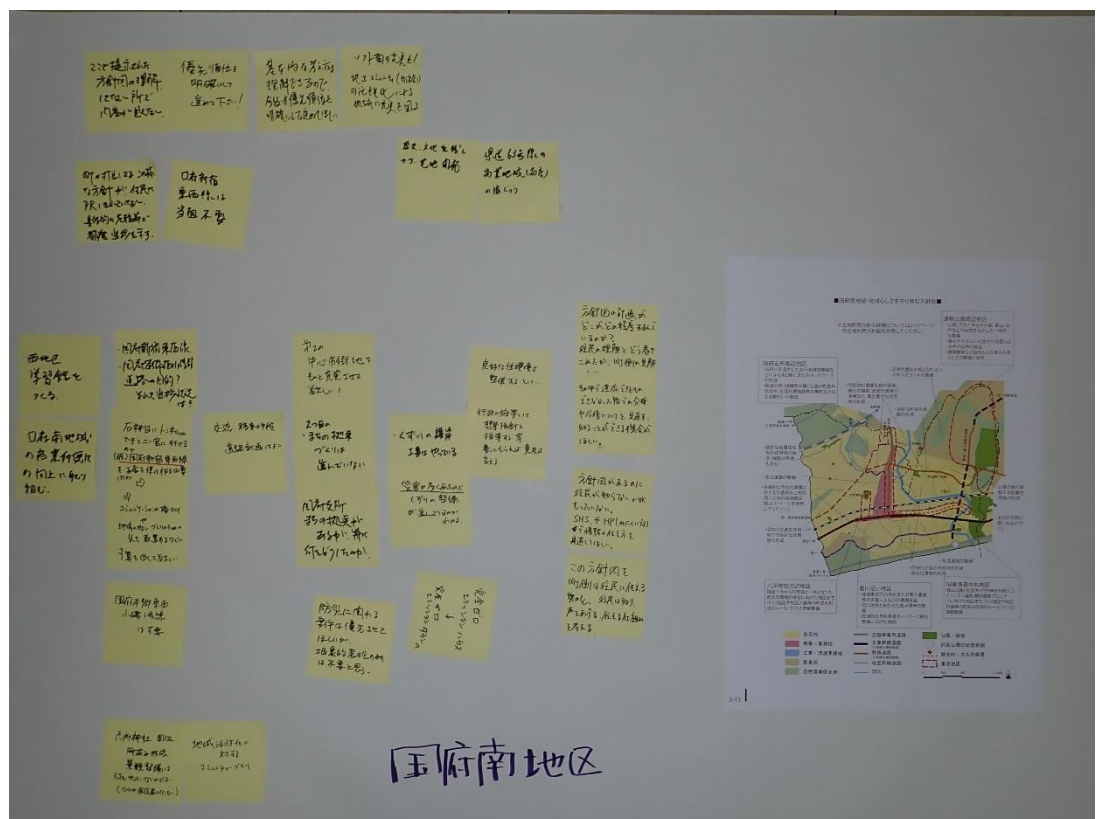
#### ④第4回大磯地域・国府南地域ワークショップ（地域別意見交換）

グループ討議終了後、他の地区に対する意見や要望を話し合ってもらった時間を持ちましたが、特に意見がなかったため、各地域の現在の計画内容の図面をみていただき、気がついた点、変更したい点を大磯、国府南の2地域別に話し合っていました。

#### 大磯地域



#### 国府南地域



#### ④第4回大磯地域・国府南地域ワークショップの詳細

##### グループ討議

##### 大磯地域

テーマ	具体的な意見
道路	雨の通勤・通学時間の駅前大渋滞 南北を通行する道路の整備が必要 東西幹線道路の整備
駅前周辺	大型観光バスは駅前に入れないで港に停め歩かせる コミュニティバスの充実 駅前のバス・タクシー乗り場を縮小 マイカーの乗り入れを充実 大規模な開発は望まない 規模を変えずレイアウトのみを変更 バス・タクシーを入れない 住民と行政による開発 駅前広場計画と周辺道路整備はセット（交通量調査により現状を知る） 駅北口の利便性向上（小さな改札を設置）
景観	似ている地形の町を参考に（尾道・イギリスの田舎町・サンフランシスコ・ハワイ）
施設・建物	商業が弱いため路地を活用した商業施設で活性化 健康増進センター（滄浪閣の脇に作りたい）温泉・スポーツジム・カフェ 空き家対策 青バトが見られるテラス プランコで日本一を目指す（北浜港） 海と山を結ぶロープウェイ 海辺に佇める場所・広場・ベンチ（掃除は住民でできる）
移動	サンダースホームのトンネルを海までの通路として活用 グリーンローモビリティ（ゴルフカート） レンタサイクルで活性化（自転車でも回れるまちに） 海辺や山をそぞろ歩きできる町
イベント	左義長を日本一の炎の祭典にしてエンターテインメント化 花火LIVEを有料化して回数を増やして税収アップ
財政	観光税収を上げて福祉に回す 独自財源を確保
コンセプト	観光に特化しない町にしたい 住民が楽しく暮らしているのを外から来た人が楽しむような 住民も来訪者も楽しめる視点 点がつながることを考えたい 大磯らしさの追求
町民参加	SNSを活用して情報共有・意見交換・情報拡散 大磯の良さを保つために住民ひとりひとりができることを考えよう 町民意見のフィードバックのさせ方 自分たちでできること（高田公園の管理） それぞれ意識を持って話し合いに参加 住民ファースト・話し合いの場を増やす・SNSで情報開示 住民意見のフィードバックの場を作る（町長・議会ミーティング）

##### 高麗・東町地域

テーマ	具体的な意見	○自分達でできること ●行政に期待すること
(1)地域通貨の「磯PAY（いそペイ）」の構想	地域活力の向上のため、地域通貨の活用 特に、ボランティア活動を支える原資として利用	○「いそペイ」の普及
(2)自治会のあり方	自治会長は負担が大きく、やる人がいない 防災活動以外、現時点では目的が不明 若者や移住者の参加が重要	○住民は声掛け運動など、自治活動へ積極的に参加
(3)行政と町民の事業仕分け	政策に係る行政マンは、まちに出て問題意識を持つことが重要 電子回覧など時代の流れを先取りし、行政事務の軽減化と職員の適正配置 町内在住の著名人（プロフェッショナル）の活用	●行政は、町民をやる気にさせる、プロデュース役 ●基本計画づくりは、ワークショップで作成
(4)条例の強化	良好な資源の保全と分割（敷地規模）の取決め 新築・リフォームにおけるチェックシステム	●条例の制定に向けた準備 ○条例の順守
(5)日本の総理を大磯から出すプロジェクト	初代首相と100代目を大磯在住者を選出させるテーマを掲げたプロジェクト（教育を重視するまちのピーアルに活用）	官民協力が必要
(6)その他	ゴミステーションの整備 大磯駅前の屋根や禁煙場所の設置	●行政が中心

## 石神台地域

テーマ	具体的な意見	○自分達でできること ●行政に期待すること
交流	大きな単位と小さな単位の2層構造でコミュニケーションの場が必要	<p>&lt;大きな単位の集まる場&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・皆で集まれる大きな施設的な場所を町に期待</li> <li>・現在、町の東側（高麗）に生涯学習センターがある</li> <li>➡●西側にも町の拠点として学習館を作してほしい</li> </ul> <p>&lt;小さな単位の集まる場&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○行政が支援して空き家利用等で地域内に集まれる場所をいくつか考えたい</li> <li>&lt;各種居場所作りの事例を参考&gt;</li> <li>・行政が絡んだサロン事例</li> <li>➡和泉台（鎌倉市主導で地域を支援）…動いているのは地域</li> <li>➡一色（二宮町 地元が行政を動かした例）</li> </ul>
	オープンな交流の場が必要（気軽に雑談できる集える場）	<p>&lt;マグネット的セミパブリック&gt;…公民館の有効利用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●公民館をもっと使いやすい場にしていきたい</li> <li>➡マグネット的セミパブリック（趣味的な内容にも使えるもの）＝町内会館は地域の公式な集まりのみにしか使えないため（月京に開館はあるが地区の人のみの利用となり、一般町民に活用されていない…公民館は遊びで気軽に使えない）</li> </ul>
石神台のまちづくり	コンセプトは「みんなで創ろう石神台」	<p>&lt;これからの石神台の目指すところ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分達が町を楽しむべき、他者より先に自分達</li> <li>・「首都圏通勤者のベッドタウン」から「柔軟に受け入れるまち」に形を変える（学生・農業をやりたい人等、多様な人が住めるような工夫）</li> <li>➡若い人を受け入れるまち（学生を下宿させる等）</li> <li>➡お年寄りが楽しく暮らせるまち（ex. 空き家利用で高齢者が快適に暮らせるグループホーム等…建築規定で集合住宅はNGとなっているが…）</li> <li>➡自営、個人事業主を増やす＝新地元民</li> <li>➡○良くも悪くも建築指針の見直し</li> </ul>
道路整備	1号線も含めた山側の道路整備	
都市施設の整備	図書館・プール等、大磯にない都市施設の利用について	<p>&lt;大磯にない施設は他市の施設を利用&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大磯にない施設は他市のを借りてもらい、大磯の資産（歴史・文化）は他市の方にも大いに活用してもらおう</li> <li>➡●他市の施設を利用できるように巡回バスを走らせる（二宮温水プール・平塚総合公園・二宮町ラヂアン等）</li> </ul>
行政の方針	町の将来像	<p>&lt;大磯の総合計画のまちの将来像について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「紺碧の海に緑の映える住みよい大磯」は、外向けのPRに過ぎない</li> <li>➡「静かな生活環境で豊かな生活が営まれるまち」</li> <li>＝「大磯の町を町民自身が楽しむ」…町民の目標</li> <li>できれば町内で完結できればよい</li> <li>＝多様性・交流・子ども参画＝生活の中に生きた歴史</li> <li>＝歴史をもっと発掘して人を呼び込む</li> <li>＝歴史・文化を町の人々がまず知ること（町の人々が楽しむ）</li> <li>➡大磯町の自然環境を活かした町づくり</li> <li>＝東京から平塚を過ぎると大磯で自然が現れる…これを活かす</li> <li>＝地域の歴史をどう住民（自分達）の場所にするか</li> <li>＝新しいまちづくりを考えると、これからの社会をつくる若い人たちを受け入れる内容の方針にするべきか</li> </ul>
	「住みやすいまち」とは	<p>&lt;不便を楽しむ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人が入ってくれば良いわけではない</li> <li>・安くすれば・便利を良くすれば良いという訳ではない</li> <li>&lt;環境を活かして第二世代が住みよいまちに&gt;</li> <li>・二宮（一色）には若い人が入ってきている事例あり</li> <li>➡住宅供給公社の工夫で通勤しなくても仕事ができる環境整備</li> <li><a href="https://www.nino-satoyama.com/pages/2326733/about">https://www.nino-satoyama.com/pages/2326733/about</a></li> </ul>
	町の方針の明確化	<p>&lt;町の方針をもっと伝えてほしい&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●公民館の使い方を町としてどう考えているのを知りたい</li> <li>●開発が止まってしまっている石神台を町はどうしたいのかを知りたい</li> <li>●暮らしの知恵を集めて回すべき</li> </ul>

国府本郷・国府新宿地域

テーマ	方向性		
持続可能性を考える	自然環境の維持	仕事から帰ってきてほっとする	
	住みやすい	持続可能性を考えざるを得ない	
	まちのサイズ感がよい	つながりやすい	
	今のレベルをどう維持するか どんな活動をしていけば良いのか	エネルギー・廃棄物	
		共有できる場所・空間	
		CSR→NPOと接触	
	自治会をどう活性化するか	活動が見えない	
		子供会の参加が減っている	
		親が働いているから	
		防犯隊は自発的	
話し合う場づくりが必要	告知方法に工夫が必要（SNS,HP等）		
	活動する人は自分で活動している		
	活動したい人はいる		
エネルギーなど企業と地域を巻き込んだ活動	太陽光発電による共有エリアの電力供給（共電社）		
メッセージが浸透するには時間がかかる			
高齢化対応	高齢者が元気になること	高齢者が元気になれば町が活性化する	
		コミュニケーションが増える	
		健康運動指導士の活用	
シャッター商店街対策	役所に窓口が必要	SNS・WEB/ホームページ	
ワークショップ	地域活動への参加意識が高まった		
	防災は必ず人が集まる		

地域別討議

大磯地域

テーマ	具体的な意見
自然・水辺	自然とふれあえるような気がしない
	海・河川などの防災をもっと考えるべきでは
	河川の水質改善と同時に治水も考えるべき
	水質改善＋親しめる空間に
	川沿い、海沿いそぞろ歩きできる大規模でない公園や遊歩道の整備
	公園や川沿い、街道沿い下草刈りなどのメンテナンス
	鴨立川・三沢川の水質は改善したのか
	旧漁村の街並み整備はやったのか
	海の家営業期間・時間を長くする
	海岸地区の海浜植物は印象にない
	金目川の親水空間整備
	三沢川上流の倒木等の処理
	海の家を年間営業にして海辺のカフェにしてほしい
	海辺でみんなで朝ご飯を食べる日とか、海を町民が楽しめるようにしたい
	海水浴場のあり方が少なすぎる
	海があるだけで、海を活用した暮らしの提案がない
	緑の保全・自然とふれあえる山
	具体的には山道整備が必要（今は住民だけでやっている）
気軽に海岸を歩けるように、海岸地区に無料駐車場ゾーンを作ってほしい	
自然保全活動のアナウンス	
景観	相続等で土地を切り売りしてしまう
	塗り込められた戸建て住宅が景観を壊していく
	強制力のある細かな条例化・植栽緑化
	大磯駅周辺地区の景観保全：住民・業者に対して行政からの指導をしっかりとる
	町並み改修の緩やかなルールづくり
公園・休憩スペース	山や松並木と調和した住宅になっていると思えない（ルールがあるのか）
	町中にもっとベンチを（ベンチには屋根がほしい）
	すべての公園が美しい町（国営、県営、町営）
	海に大きな施設だけでなく佇める場所・スポット・ベンチがほしい
	丘陵地にビュースポット・フチ広場・たまり場・ベンチを
	ビーチバレーのメッカとしての専門コートの開設
海の見える丘のような公園	
まち歩きをしてほっと休める場所がほしい	

テーマ	具体的な意見
道路整備	東海道と大磯停車場線交差点のスクランブル化（交通を安全にスムーズに） 歩ける町にするには歩道・道路整備が必須 大がかりなものではなく、本当に必要な住民のための抜け道が必要
移動手段	シェアサイクルのステーションをたくさんつくる 大磯駅を中核としたコミュニティバスの運行
施設整備	大磯駅前に観光集客センターづくり（高所より大磯の良さを展望する施設） 生活利便施設等の集約化ができていないと思う NCR跡地・企業誘致：マルシェ・市・道の駅などで活用 若い人たちがスモールビジネスをできるような路地の開発が商業活性化に必要
駅北口改札の設置	無人改札があっても良い（監視カメラなどを設置しリモート） 北側の住民が南側まで迂回せずに駅を利用できるメリット 北口の小さなロータリーと迂回路の整備 南口の渋滞緩和
駅前広場周辺エリアの再整備	駅前計画は住民を交えての開発が必要 バス乗り場：縮小 タクシー乗り場：2～3台分を除き、別の場所で待機 一般車を乗り入れ可能にする マイカー送迎の代わりにコミュニティバスを充実 規模と景観は変えずにレイアウトのみ変更 大規模な開発は望まない 開発の前に交通量調査「現状を知る」 別の場で住民を交えた議論 住民と行政による開発 駅前安全安心にぎわい計画は大胆に改造すべきなので反対者に負けるな 駅前改造に現在ある空地も取り込んで予算を掛けて取り組んでほしい 駅前広場周辺エリアの再整備は開発ではなく調整 駅周辺の緑はとてもいいが、落ち葉の掃除などがされていないのが目立つようになった アクサ生命の建物を買い取って駅前開発に活用した方が税金の有効活用になる 大規模開発を住民は望んでいない、今ある環境を活かしたまちづくり
化粧坂松並木地区	春の桜の時期に下草が除草されていない 松並木適切に剪定して 松並木の景観を守ろう 松並木の周辺の草花の手入れ・ボランティア募集
下町地区	生活人が集う空間・町並みづくり（SOHO、ギャラリー）
コンセプト	小さな改革の積み重ねが結果住み良い町へ 大磯らしさの町民の合意をしっかりと統一すること 駅前改良において議員への教育が必要（最も大事） 大磯の町政は大胆さが必要、そうでない守旧は死滅する 人口3万人の町の割にはまとまらない町だ（資金不足、人材不足等）
町民参加	ボランティアがしやすい、楽しくできるツールが必要 町民が行政に意見を言えるグループラインをつくり、誰もが見られて参加できるようにする
イベント	北浜を活用したジャズ・盆踊りや有料の花火大会・L I V Eで税収アップ

国府南地域

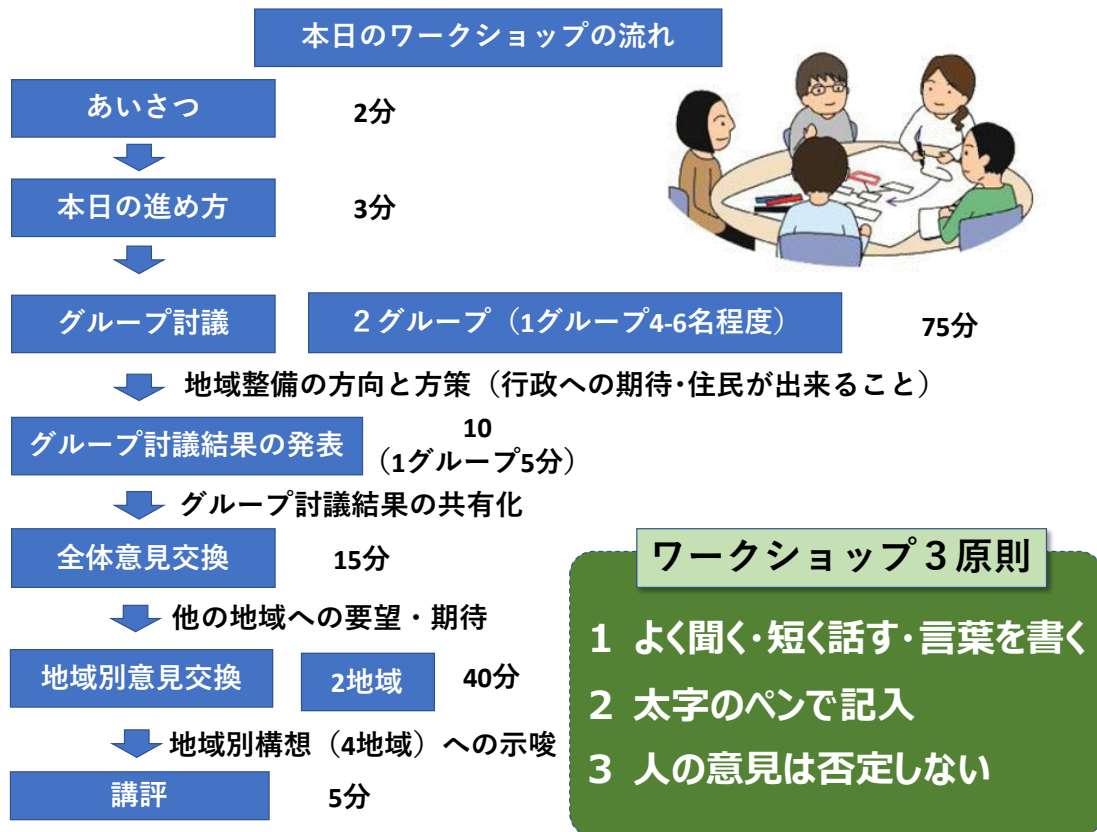
テーマ	具体的な意見
国府本郷西小磯1号線は不要	国府新宿 東西線は当面不要 国府新宿東西線・国府本郷西小磯道路の目的は？進捗状況は？ 石神台にトンネルが出来て二宮に行けるので（仮）国府新宿東西線をお金を使って作る必要はない
優先順位を明確にして進める	提示された方針図を理解していないところで内容が見えない 基本的な考え方は理解できるので今後は優先順位明確にして進めて欲しい 防災に関わる案件は優先させて欲しいが、抽象的表現のものは不要と思う
方針のPRが足りない	町の打ち出しているこのような方針が住民にPRしきれていない 方針図があるのに住民が知らないのがもったいない この方針図を町側は住民に伝える努力と、住民は知り、声を上げる、伝える仕組みを考える 行政の施策として建築指針を指導するなど書いてもらえれば意見は言える SNSやHP(見にくいです)で情報の伝え方を見直して欲しい
進捗状況を示す必要がある	具体的な施策等で都度進捗を示す 方針図の計画がどこがどの程度進んでいるのか 達成できた物、出来なかった物の分析や今後について見直す、知ることが出来る機会が欲しい 六所神社周辺 街並み形成 景観整備は何もやっていないのでは（OOが歯科医になった）
コミュニティづくり	地区コミュニティ(自治会)の活性化による地域の充実を図る コミュニケーションの場づくりや地域のサロンづくりのための人を配置するなど予算を回して欲しい 地域活性化に対するコミュニティづくり 西地区 学習館をつくる
商業利便性の向上	県道63号線の商業地域(商店)の拡充 国南地域の商業利便性の向上に取り組む
中心市街地の充実	第二の中心市街地をもっと充実させて欲しい 二つ目のまちの拠点づくりは進んでいない 国府支所、まちの拠点があるが特に何をどうしたのか
葛川の整備は進んでいる	葛川の護岸工事はやっている 災害が多くあったので葛川の整備が進んでいるのがわかる
その他	交流・移手段 道路計画はよい 良好な住環境を整備するとは？ 町側の見解 完全ゼロエミッションハウス 歴史文化を残しつつ宅地開発 ソフト面の充実を！

## (2) 地域別構想に向けたワークショップ（小磯地域・国府北地域）

### ①実施概要

日 時 令和元年 12 月 21 日（土） 13:00～15:00  
 場 所 大磯町保健センター2 階研修室  
 参加者数 15 名

### ②第 4 回小磯地域・国府北地域ワークショップの流れ



討議風景





③第4回大磯地域・国府南地域ワークショップ（グループ討議）

12月21日（土）、大磯町保健センター2階研修室を会場に、総勢15名の小磯地域、国府北地域町民の皆さんのご参加により、大磯町まちづくり基本計画策定のための第4回ワークショップが開催されました。

最初に、事務局よりこれまでのワークショップの経過について説明が行われ、2つのグループに分かれて、第4回のテーマである「大磯町のまちづくりからみた地域整備の方向と方策」について、ふせんに記入をしながら話し合いました。

各グループの結果の概要は以下の通りです。

小磯地域

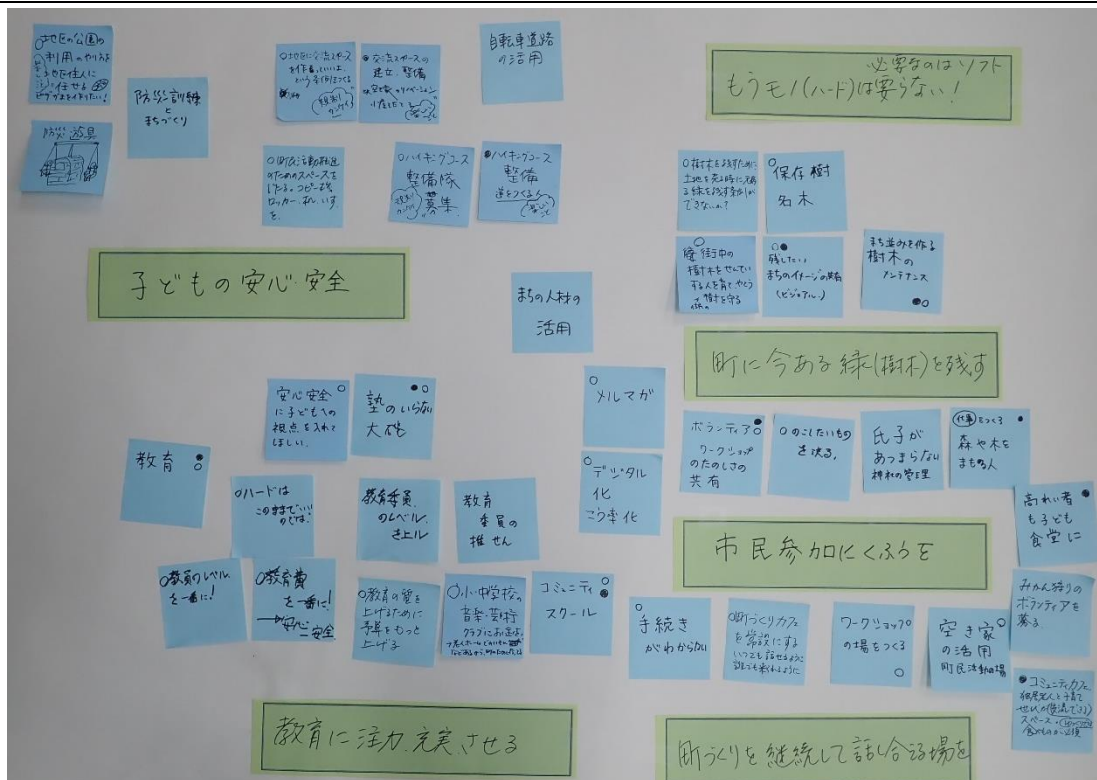
ハードの整備は変更不要  
 現行の計画には小磯地区の良さや町並みを残していこうと既にも書いてあるので特に変更する必要はない。

町に住むことの安心安全  
 公園の活用の仕方から、防災の遊具を作ったらどうか

人材の活用  
 自転車道路の活用やハイキングコースの整備をするボランティアの人をもっと活用し、人材も含めて活用していったらよい。

教育  
 大磯の教育は伝統的にレベルが高く大磯独自の教育があったのですが、それを伸ばすと良い。デジタル化の推進をもっとして、学校の先生一人ひとりの仕事を減らせないか。

街並み  
 大磯の風景の中に樹木があるので、そのイメージを皆で共有したらどうか。





## 国府北地域

### 山の手からの脱皮

10年プラン、20年プラン、30年プラン、その位まで考えないと決して山の手地区から脱皮できない、町中の都会の方に任せては、いつまでたっても猪と暮らさざるを得ない。

### 虫窪の里山構想

虫窪の方々が構想している「里山を作ろう」にエネルギーがあると感心した。黒岩でも西久保でもおそらくそこに合流していけるのではないかと考えています。

「里山」というコンセプトにヨーロッパの「美しい村」を中長期計画の中に入れられれば、大磯の町民がプライドの持てるエリアにできるはず。

地権者の了解をもらい、何人かの方で話を進めており、来年の2月頃に地域のある程度のメンバーを集めて今後の構想をねっていく予定。自治会の方にも声をかけて皆さんでやっていければ良いと思っています

誰でも自由参加で、虫窪はみかんを作ったり、いろいろな野菜を作ったりしているので、それらを販売ができればよいと思っています。

町を当てにしているわけではなく、有志を集めて来年4月にはオープンできるようにしていきたいという構想を持っています。

町民が「すごいところだね」、人が来た時に「自慢なの」という施設なりエリアになると良いと思っています。

「里山の駅」では、賑わいと雇用が生まれて、当然、雇用が生まれれば儲かって嬉しいし、農作物も自分達で値段を付けて評価してもらうことができます。そのようなことが回っていくとよいということです。

綺麗にすることをコミュニケーションの一大イベントに使用ではないか。そのような発想で考えていきたい。

「きれいなトイレが拠点にできて欲しい」「古びた自治会館を新しくして欲しい」という話も身近にあります。

「10年経ってもまだできないではないか、でも、この方法が良いよね」と思えるようなプランが残っていくことは、とても意味があると思います。

「実現できたこと」「実現できないことはこれです」と提示していただき、「さらにそれはこうではないか」と10年に1回のことをただ書類を作れば良いではないようお願いしたいと思いました。

### 竹林の整備

大磯町の竹林は、ほとんど誰も足を踏み入れられない状況ですぐに鳥獣の棲家になってしまします。

竹林問題にも専門の部署ができてよいのではないかと。

竹林チーム、竹林お助け隊を作って取り上げ、成功事例になれば全国から大磯町を見に来るはず。

70歳まで働けと言われていた中、低賃金でもよいから、土日でもよいから、退職した後でも働けるように、年金の足しになるように等、自分達の手でやっていったらどうかと思っています。

**700年代**

高尾山麓の歴史

- 高尾山麓の歴史
- 高尾山麓の歴史
- 高尾山麓の歴史
- 高尾山麓の歴史

**70年代組織**

70年代組織

- 70年代組織
- 70年代組織
- 70年代組織

**雇用の70年代**

雇用の70年代

- 雇用の70年代
- 雇用の70年代
- 雇用の70年代

**他人事務の70年代**

他人事務の70年代

- 他人事務の70年代
- 他人事務の70年代
- 他人事務の70年代

**新しい70年代**

新しい70年代

- 新しい70年代
- 新しい70年代
- 新しい70年代

**里山に期待**

里山に期待

- 里山に期待
- 里山に期待
- 里山に期待

**大磯町**

大磯町

- 大磯町
- 大磯町
- 大磯町

**里山に**

里山に

- 里山に
- 里山に
- 里山に

大磯町内各区域の土地利用計画

- 大磯町内各区域の土地利用計画
- 大磯町内各区域の土地利用計画
- 大磯町内各区域の土地利用計画

**PR**

PR

- PR
- PR
- PR

**大磯町**

大磯町

- 大磯町
- 大磯町
- 大磯町

**里山に**

里山に

- 里山に
- 里山に
- 里山に

**里山に**

里山に

- 里山に
- 里山に
- 里山に

**里山に**

里山に

- 里山に
- 里山に
- 里山に

**里山に**

里山に

- 里山に
- 里山に
- 里山に

**里山に**

里山に

- 里山に
- 里山に
- 里山に

**里山に**

里山に

- 里山に
- 里山に
- 里山に

**里山に**

里山に

- 里山に
- 里山に
- 里山に

**竹林問題**

竹林問題

- 竹林問題
- 竹林問題
- 竹林問題

**里山に**

里山に

- 里山に
- 里山に
- 里山に

**里山に**

里山に

- 里山に
- 里山に
- 里山に

**若人**

若人

- 若人
- 若人
- 若人

**若人**

若人

- 若人
- 若人
- 若人

**若人**

若人

- 若人
- 若人
- 若人

**若人**

若人

- 若人
- 若人
- 若人

**若人**

若人

- 若人
- 若人
- 若人

**若人**

若人

- 若人
- 若人
- 若人

**若人**

若人

- 若人
- 若人
- 若人

**若人**

若人

- 若人
- 若人
- 若人

**若人**

若人

- 若人
- 若人
- 若人

#### ④第4回小磯地域・国府北地域ワークショップの詳細

##### 小磯地域

テーマ	具体的な意見
子どもの安心・安全	防災遊具
	防災訓練とまちづくり
	安全・安心に子どもへの視点を入れてほしい
市民参加に工夫を	地区の公園の利用方法を住民に任せる
	意見するための手続きがわかりにくい
	メルマガなどデジタル化で効率化
	ボランティア・ワークショップの楽しさの共有
	残したいものを決める
町づくりを継続して話し合える場を	残したいまちのビジュアル的なイメージの共有
	地区に交流スペースを作っているよという条例を作る(規制緩和)
	交流スペースの建設・整備(空き家のリノベーション)
	町民活動推進のためのスペースを作る(コピー、ロッカー、机、椅子)
	空き家の活用、町民活動の場
	ワークショップの場をつくる
教育に注力・充実させる	町づくりカフェを常設する、いつでも話せるように、誰でも来られるように
	塾のいらない大磯
	教育のハードはこのままで良い
	教育委員のレベルを上げる
	教育委員の推薦
	教員のレベルを一番に
	教育費を一番に(安全・安心)
	教育の質を上げるために予算をもっと上げる
	小中学校の音楽・芸術クラブに予算を(老人ホームの慰問など)
	コミュニティスクール
必要なのはソフト、もうハードは要らない	高齢者も子ども食堂に
	コミュニティカフェ、独居老人と子育て世代がゆっくり交流できるスペース・食べ物必須
	自転車道路の活用
町に今ある緑・樹木を残す	樹木を残すために、土地を売る時に元ある緑を残す条例ができないか
	保存樹・名木
	町中の樹木を剪定する人を育て、雇う、住民の樹を守る
	まち並みを作る、樹木のメンテナンス
まちの人材の活用	ハイキングコース整備隊募集
	ハイキングコース整備(道を作る人)
	仕事を作る、森や木を守る人
	みかん狩りのボランティアを募る
	氏子が集まらない神社の管理

##### 国府北地域

テーマ	具体的な意見
住みやすさ	通勤に便利(通勤圏内)をアピール
	住みやすさをアピール
10年20年30年先	大磯町民にとってプライド(誇り)を持てる里山、富士見、美しい村
大磯の財政	税収が少なくなっても町民は豊かな生活をしていますよ 自然は素晴らしいが凄すぎる
大磯町のまちづくり	賑わいが生まれれば交通もよくなる 「海と山に囲まれた緑のまち」と言うが、今は近寄ると荒れ放題
国府北の長期プランで検討	里山の駅
	西久保 富士の見える場所、お地藏さんのある場所、里の駅(個人の土地)など
	虫窪のトイレ(美化センター管理)は必須
	スポーツ広場は大人が利用、子ども達の通学路でもある
	虫窪 富士山が見えるところ、駐車場のあるところは人を呼ぶ(トイレもある)
里山に期待	里の駅
	自分たちが値段をつけて売る(雇用が生まれる)
	シビエ、野菜、海のものも置く
	里山実現のためにできること=里山ファンド(案)
	富士山が見える
	海が見える
	特産物がある
	お地藏さんが拜める
	ご来光を拜める
	桜だけでなく、四季を通じて花を植える
	菜の花(個人でも植えている)=里山フラワーロード(案)
地元の有志で動き始めている	
地域が動けば町も考えてくれる	

テーマ	具体的な意見
里山再生のプロジェクト化	農地を荒らしていると固定資産税が1.8倍 手が入られなくなり畑が荒れ獣害 相続の心配⇒農地と山林を持っている人 行政も努力して里山再生、農地利用、竹林整備をプロジェクト化 のどかな富士見地区にしたい
竹林問題 (誇りを持つために解決すべき課題)	荒れた竹林→町が放置せざるを得ない状態のもの 以前は竹に需要があったが今はない 竹がお金になるようなしくみ(竹チップ、竹炭など) 利用し続ける 竹林の整備と併せて道路整備、富士山の見える絶景散策ルートをつくる 城山公園のようなきれいな竹林にしたいが労力が大変すぎる 少しずつ一歩一歩 皆で協力して整備するしかない 10年後20年後きれいになっているとしないと若い人は皆出てしまう 荒地を整備する産業 竹と竹の間は2m必要(美しい竹林の条件)
チームを組織	金がないからと言ってできないことはない 防災、山林の荒廃を防ぐ等々 プライドを持ち続けるには「チームを組織化」
雇用をつくる	自分の得意としていること 山を整備する技術 ピーマンが美味しい オートバイが自慢 ゴルフ上手等々 農作物のネットワークがある
シルバー人材の雇用化	シルバー人材伐採専用プロジェクト 仕事が生まれれば雇用になる シルバー人材を雇用に変えていけば… 伐採時用の人材を育成
自分達で魅力を創るべき	若い人の大磯の魅力 プリンスホテル、ロングビーチ 観光バスが通るルートが有名になっているだけ(吉田邸など) 自分たちで魅力を創るべき(菜の花畑など)
事業化	虫窪の里山構想(2月にオープン) 山は人の手をかけてはじめて里山になる
空いている土地、家の利用	最近生沢にコンビニができた
町のなかの交流	落葉をください 薪ストーブの木をください 里山事業ができれば交流も生まれるだろう
楽しむこと! (皆が集うことは楽しい)	生沢のお祭りには大勢集まり、多くの人を知り合え楽しむ 行政の支援で山をきれいにするお祭り 町全体で海山をきれいにする一日にしまようという楽しむお祭りイベント 竹を切って持って行けば特典があるイベントなど
若い人の意識・活動	生活に必死 池の会 黒岩の60歳以下の方の集まり 年に2回バーベキュー(20~30人集まる)おまつり、コミュニケーション 60代以上になってやっと町のことをどうしようか考えられる 池の会を卒業したらいずみの会 ずっと人生を楽しむための会 若い人がまちから出ているのは必然性がある あとで戻ってくるようなまちづくり 畑付きの家(面倒くさいがちょっとした贅沢) 便利もあれば贅沢もある
他所の情報を収集・利用	町の職員も他所の情報を集めるべき 松田・開成町でもちょっとした紫陽花、桜なども人を集める 生沢の蓮があったがザリガニが多くなり全滅した
「いいもの」を行政でPR	突出した事実を創る